

愛知医科大学 学報

憧れの先へ、
一歩ずつ。

同じ夢を追いかける仲間がいる。
夢中で学び続ける日々がある。
医療の未来を生きる、
あたらしい自分へ。
かけがえのない時間が
ここにある。



愛知医科大学キービジュアル

＝ 第183号 ＝
2026.7月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス
www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

令和9年度学生募集概要	2
春の叙勲の栄誉	6
令和7年度愛知医科大学決算	8
教授就任インタビュー	17
医学部長・看護学部長所信表明	22
令和8年度看護学部キャンドルセレモニー举行	26
国家試験日程のお知らせ	28
大学病院の中央診療部に新たな部門設置	31
宇良関の入院患者慰問及び病院長表敬訪問	31

令和9年度医学部医学科学生募集概要

医学部医学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程					
区 分	募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日
学校推薦型選抜（公募制）	約20名※1	11/1～11/13 [消印有効]	11/28	本 学	12/10
学校推薦型選抜 （愛知県地域特別枠A方式）	約5名※2				
国際バカロレア選抜	若干名				
外国にルーツを持つ生徒特別選抜	若干名				
一般選抜	約70名※3	12/14～1/22 [消印有効]	第1次試験 2/9	名古屋、東京 大阪、福岡	2/15
			第2次試験※4 2/18～20 （いずれか希望する日）	本 学	2/24
大学入学共通テスト 利用選抜	約15名	12/14～1/15 [消印有効]	第1次試験 1/16・17 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 試験会場	2/15
			第2次試験※4 2/18～20 （いずれか希望する日）	本 学	2/24
大学入学共通テスト利用選抜 （愛知県地域特別枠B方式）	約5名※2	12/14～2/26 [消印有効]	第1次試験 1/16・17 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 試験会場	3/8
			第2次試験 3/10	本 学	3/18

※1 国際バカロレア選抜若干名を含む。

※2 愛知県地域特別枠はA方式・B方式合わせて10名を選抜。

※3 外国にルーツを持つ生徒特別選抜若干名を含む。

※4 一般選抜と大学入学共通テストの第2次試験は、同一日程で実施します。また、一般選抜と大学入学共通テスト利用選抜を併願し、両選抜において第2次試験の受験資格を得た場合でも、第2次試験（面接）の受験は1回のみとし、その評価を両選抜に用います。

◆入試科目・配点・時間					
区 分	出題教科	選考方法及び出題科目※1		配 点	時 間
学校推薦型選抜（公募制） （愛知県地域特別枠A方式） 外国にルーツを持つ生徒 特別選抜	小論文			5段階評価	60分
	基礎学力試験 （数学）	『数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B（数列）、 数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）』		100点	60分
	基礎学力試験 （外国語）	『英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、 英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、 論理・表現Ⅲ』		100点	60分
	面接（個人面接）			5段階評価	—
国際バカロレア選抜		書類選考・小論文・面接（個人面接）			
一般選抜	第1次試験	理 科	『物理基礎、物理』、『化学基礎、化学』、『生物基礎、生物』 の3科目のうち2科目選択	200点 （各100点）	100分
		数 学	『数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B（数列）、 数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）』	150点	80分
		外国語	『英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、 英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、 論理・表現Ⅲ』	150点	80分
		小論文※2		5段階評価	50分
	第2次試験	面接（個人面接）		5段階評価	—
大学入学 共通テスト 利用選抜	第1次試験 （大学入学共通テスト）	国 語	『国語』（近代以降の文章のみ利用）※3	100点	大学入学 共通テスト 実施日程どおり
		数 学	『数学Ⅰ、数学A』、『数学Ⅱ、数学B、数学C』	200点 （各100点）	
		理 科	『物理』、『化学』、『生物』の3科目のうち 2科目を選択	200点 （各100点）	
		外国語	『英語（リーディング・リスニング）』※4	200点	
	第2次試験	面接（個人面接）		5段階評価	—
大学入学共通テスト利用選抜 （愛知県地域特別枠B方式）		試験内容は大学入学共通テスト利用選抜と同様			

※1 詳しくは学生募集要項を参照して下さい。

※2 小論文の評価は第1次試験の判定には使用せず、第2次試験の判定に使用します。

※3 「国語」は110点を100点に換算します。

※4 「英語」はリーディング100点を160点に、リスニング100点を40点に換算します。

令和9年度看護学部看護学科学生募集概要

看護学部看護学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程							
区 分		募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日	
学校推薦型選抜	指定校制	約15名	11/2～11/11 [消印有効]	11/21	本 学	12/1	
	公募制	約20名					
社会人等特別選抜		若干名					
一般選抜		約45名	12/21～1/22 [消印有効]	2/7		2/12	
大学入学共通テスト併用型選抜		約 5 名	12/21～1/25 [消印有効]	一般選抜及び大学入学 共通テスト日程参照	本学及び大学入学共通 テスト受験会場	2/18	
大学入学 共通テスト 利用選抜	A方式	約10名		1/16・17 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 受験会場		
	B方式	約 5 名					
◆入試科目・配点・時間							
区分		出題教科	選考方法及び出題科目		配点	時間	
学校推薦型 選抜	指定校制	面接			—	—	
	公募制	国 語	『現代の国語、言語文化（古文・漢文を除く。）、論理国語』		100点	45分	
		数 学	『数学Ⅰ、数学A』※1		100点	45分	
		外国語	『英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅰ』		100点	45分	
		面接（個人面接）			—	—	
社会人等特別選抜		小論文		—	60分		
		面接（個人面接）			—	—	
一般選抜		国語・数学	『現代の国語、言語文化（古文・漢文を除く。）、論理国語』、 『数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A』から1科目を選択 ※1 ※2		100点	60分	
		理 科	『物理基礎』、『化学基礎』、『生物基礎』から1科目を選択		70点	45分	
		外国語	『英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅰ』		100点	60分	
大学入学 共通テスト 併用型選抜	一般選抜	国語・数学	『現代の国語、言語文化（古文・漢文を除く。）、論理国語』、 『数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A』から1科目を選択 ※1 ※2		2教科 200点	60分	
		外国語	『英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅰ』			60分	
	大学入学 共通テスト	国 語	『国語』（近代以降の文章）※3		高得点 2教科 200点	400点	
		地理歴史・ 公民	『地理総合、地理探究』、『歴史総合、日本史探究』、『歴史総合、 世界史探究』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地理総合／歴史総合／公共』から1科目を選択				
		数 学	『数学Ⅰ、数学A』、『数学Ⅱ、数学B、数学C』から1科目を選択				
		理 科	『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』、『物理』、『化学』、『生物』、『地学』から1科目を選択				
		外国語	『英語』（リーディング・リスニング）※4				
		大学入学 共通テスト 利用選抜		A方式			国語・数学
B方式	理 科	『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』、『物理』、『化学』、『生物』、『地学』から1科目を選択			100点		
	外国語	『英語』（リーディング・リスニング）※4			100点		
	国 語	『国語』（近代以降の文章）※3			100点		
	地理歴史・ 公民	『地理総合、地理探究』、『歴史総合、日本史探究』、『歴史総合、 世界史探究』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地理総合／歴史総合／公共』から1科目を選択			100点		
	数 学	『数学Ⅰ、数学A』、『数学Ⅱ、数学B、数学C』から1科目を選択			100点		
	理 科	『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』、『物理』、『化学』、『生物』、『地学』から1科目を選択			100点		
外国語	『英語』（リーディング・リスニング）※4		100点				

※1 数学Aの出題範囲は「場合の数と確率」及び「図形の性質」とする。

※2 数学Ⅱの「微分・積分の考え」は出題範囲から除く。

※3 国語は、110点を100点に換算する。

※4 外国語は、200点を100点に換算する。

令和9年度大学院医学研究科（博士課程）学生募集概要

大学院医学研究科（博士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

- ・基礎医学系 13名
- ・臨床医学系 17名

2 入試日程

【第1次募集】

出願期間：令和8年8月3日（月）から
令和8年8月17日（月）まで（必着）
試験日：令和8年10月2日（金）
試験場：大学本館
合格発表：令和8年11月6日（金）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施
出願期間：令和8年12月1日（火）から
令和8年12月15日（火）まで（必着）
試験日：令和9年1月29日（金）
試験場：大学本館
合格発表：令和9年2月26日（金）

3 試験項目・時間

試験項目	時 間
外国語（英語） 〔辞書使用可、電子辞書不可〕 ※外国人志願者は外国語試験を免除する。	10：00～ 12：00
面接試験 （志望する専攻分野に関連する専門試験を含む。）	13：00～

令和9年度大学院看護学研究科（修士課程）学生募集概要

大学院看護学研究科（修士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

15名

2 教育研究分野

教育研究分野	専攻領域	コース
基礎看護学	基礎看護学	修士論文
	看護管理学	
母子看護学	母性看護学	
	小児看護学	
成人・老年看護学	慢性看護学	
精神・在宅・地域看護学	精神看護学	
	在宅看護学	
	地域看護学	
高度実践看護学	感染看護学	高度実践看護師 （専門看護師[CNS]）
	臨床実践看護学	高度実践看護師 （診療看護師[NP]）

3 入試日程

【第1次募集】

出願期間：令和8年8月3日（月）から
令和8年8月17日（月）まで（消印有効）
試験日：令和8年9月4日（金）

試験場：看護学部棟

合格発表：令和8年9月10日（木）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施
出願期間：令和9年1月4日（月）から
令和9年1月15日（金）まで（消印有効）
試験日：令和9年2月4日（木）
試験場：看護学部棟
合格発表：令和9年2月10日（水）

4 試験時間・科目等

試験時間	試験科目等
9：00～10：30	小論文
11：00～12：30	専門科目（※）
13：30～	面接

※ 専門科目の出題について

- 1 修士論文コース：志願する専攻領域
- 2 高度実践看護師（専門看護師[CNS]）コース：CNS関連分野
- 3 高度実践看護師（診療看護師[NP]）コース：主な疾患の病態生理・治療及び看護

令和9年度大学院看護学研究科（博士後期課程）学生募集概要

大学院看護学研究科（博士後期課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

4名

2 教育研究分野

教育研究分野	専攻領域	コース
基盤看護学	基礎看護学	PhDコース 及び DNPコース
	精神看護学	
	感染看護学	
成育・療養支援看護学	母子看護学	
	成人看護学	
	老年看護学	
包括・実践看護学	地域看護学	
	在宅看護学	
	高度実践看護学	

3 入試日程

【第1次募集】

出願期間：令和8年8月3日（月）から
令和8年8月17日（月）まで（消印有効）

試験日：令和8年9月5日（土）

試験場：看護学部棟

合格発表：令和8年9月10日（木）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ
実施

出願期間：令和9年1月4日（月）から
令和9年1月15日（金）まで（消印有効）

試験日：令和9年2月4日（木）

試験場：看護学部棟

合格発表：令和9年2月10日（水）

4 試験時間・科目等

試験時間	試験科目等
9：00～ 10：30	英語〔辞書・電子辞書（通信機能が無いものに限る）使用可〕
11：00～ 12：30	小論文
13：30～ 15：00	専門科目（志願する専攻領域に関する内容）
15：20～	面接（研究計画書に基づくプレゼンテーションを含む）

役員・評議員の異動

【理事】

退任 加藤 雅通（令和8年6月29日付）
就任 宮地 茂（任期：令和8年5月25日～令和9年度の定時評議員会の終結の時）
野場 万司（任期：令和8年6月29日～令和9年度の定時評議員会の終結の時）

【監事】

退任 林 清博（令和8年6月29日付）
就任 西原 浩文（任期：令和8年6月29日～令和11年度の定時評議員会の終結の時）

【評議員】

退任 金森 俊輔（令和8年6月29日付）
田上 寛（令和8年6月29日付）
野場 万司（令和8年6月29日付）
早川 真人（令和8年6月29日付）
就任 青山 貴彦（任期：令和8年6月29日～令和9年度の定時評議員会の終結の時）
若林 知美（任期：令和8年6月29日～令和9年度の定時評議員会の終結の時）
小林 博文（任期：令和8年6月29日～令和9年度の定時評議員会の終結の時）
宮川 浩一（任期：令和8年6月29日～令和9年度の定時評議員会の終結の時）

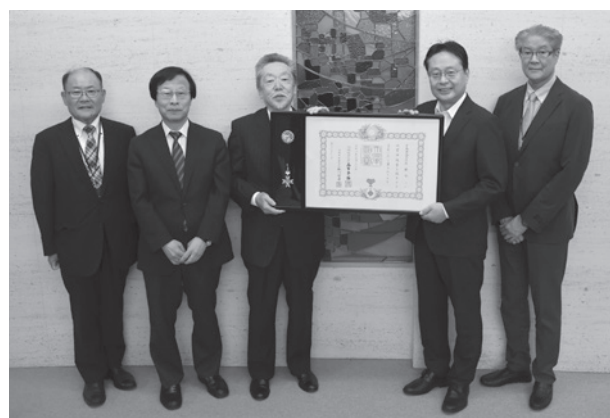
佐藤 啓二名誉教授（元学長） 春の叙勲の荣誉

本学元学長の佐藤啓二名誉教授が、令和8年春の叙勲において瑞宝中綬章を授与され、令和8年5月20日（水）にホテルニューオータニ東京において伝達式、皇居宮殿において拝謁が行われました。心からお祝い申し上げます。

佐藤名誉教授は、昭和51年に名古屋大学医学部を卒業後、同大学大学院博士課程を経て渡米され、骨形成因子に関する基礎研究に従事されました。帰国後は名古屋大学医学部附属病院講師、助教授を歴任され、平成9年に本学医学部整形外科学講座の教授に就任されました。

整形外科学の分野では、骨軟部腫瘍の診断・治療の発展に尽力するとともに、多くの後進の育成にも大きく貢献されました。また、本学整形外科学講座の教育・研究・診療体制の充実に努められ、講座の発展を支えられました。

その後、本学附属病院長、副学長及び学長を歴任され、新病院建設や病院機能改革、大学運営改革を



羽生田理事長等との記念撮影
(左から3番目：佐藤名誉教授)



瑞宝中綬章賞状

推進されるなど、本学の発展に大きく寄与されました。

山形 由美子元副部長 春の叙勲の荣誉

本院看護部元副部長の山形由美子さんが、令和8年春の叙勲において瑞宝単光章を授与され、令和8年5月20日（水）にホテルニューオータニ東京において伝達式、皇居宮殿において拝謁が行われました。心からお祝い申し上げます。

山形さんは、昭和50年に東京都立新宿高等看護学院を卒業後、東京都立墨東病院に勤務され、集中治療室や循環器領域における看護実践を通じて研鑽を積みまれました。その後、東邦大学医療センター大橋病院及び佐倉病院において看護婦長などを歴任され、看護体制の整備、人材育成に取り組まれました。

平成18年に本院看護部看護師長、翌19年に看護部副部長に就任され、看護管理体制の充実や人材確保、



瑞宝単光章賞状

医療安全対策などに尽力されました。特に、新病院開院に向けた看護職員の確保や教育体制の整備を主導され、本院の看護体制の充実と看護サービスの向上に大きく寄与されました。

ふるさと納税（寄附）及び教育・研究・診療の 基盤整備（施設・設備）事業募金ご協力のお願い

ふるさと納税（寄附）について

長久手市は「ふるさと納税（寄附）制度」を活用し、市内の大学の支援を開始しました。ふるさと納税制度を通じて、実質2,000円の負担（控除上限額は年収と家族構成により各個人異なります。）で、直接「愛知医科大学」を支援いただけます。寄附金は未来の医療人育成を中心に、教育研究活動の推進に資する事業に活用いたします。

ふるさと納税（寄附）の御礼

市からの返礼品はありませんが、大学から心ばかりの御礼を贈呈します。

1 ふるさと納税での寄附金額が1万円以上の方 愛知医科大学オリジナルグッズから1点



キーホルダー



手提げ袋



クリアファイル・
ボールペンセット



フェイスタオル



ワイヤレス充電器



2 ふるさと納税での寄附金額が5万円以上の方 上記1に加え、院内又は学内食堂食事券などから 1点（なお、5万円増すごとに1点ずつ加算して 贈呈します。）



ブルネエズ株式会社と本学共同開発のハンドクリーム



病院レストラン「シトラス」
食事券1セット（定食×2食分）



大学本館1階食堂「オレンジ」
食事券1セット（日替ランチ×5食分）

3 ふるさと納税での寄附金額累計が200万円以上の方

本院でのプレミアム人間ドックの受診



※ふるさと納税の御礼1、2を受ける場合は、
同御礼3の寄附金額累計に加算されません
のでご注意ください。

教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備） 事業募金について

- ① 募金目的 教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業
- ② 募金1口の金額 個人：1万円 法人：5万円
- ③ 税制優遇措置
個人：税額控除制度・所得控除制度のいずれかを選択等
法人：受配者指定寄付金制度等

寄附の顕彰

- ① 広報誌・HP等での寄附者の御芳名（個人名、法人名）
- ② 個人10万円以上（累計）、法人50万円以上（累計）
寄附者御芳名（プレート）
- ③ 個人100万円以上（累計）寄附者御芳名（タイル）

寄附の方法

<書面（郵送）>

・本学HPから必要な書類をダウンロード又は資金
出納課までご連絡いただければご郵送いたします。

<インターネット>

・本学HPからお申込みいただき、クレジットカード、
コンビニエンスストア等を利用するお支払い
が可能です。

より詳しい詳細はQRコード
からご覧いただけます！



教育・研究・診療の基盤整備
（施設・設備）事業募金



ふるさと納税

●お申込み・お問い合わせ ご不明点がありましたら、お気軽にお問い合わせください。

学校法人愛知医科大学 財務管理室 資金出納課 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

TEL：0561-63-1062（受付時間8：30～17：15 土日祝日を除く）✉ sikin@aichi-med-u.ac.jp

令和7年度愛知医科大学決算

令和8年6月15日（月）に開催された理事会において、令和7年度決算が承認されましたので、その概要をお知らせします。

■概要

令和7年度は、大学への寄附金・補助金の増加、病院での医療収入の増加、及び全学での支出削減によって経常収支の黒字化を達成しました。

具体的には、教育・研究面では、国家試験対策や教育内容の改善により一定の成果を維持するとともに、入試制度改革や広報の強化により志願者基盤の確保を図り、大学院機能の充実や研究支援体制の強化を通じて、教育研究基盤の整備を着実に進めました。診療面では、本院における高度急性期医療の充実と救急医療体制の強化により、地域における中核的役割を一層明確化し、本院・メディカルセンター・眼科クリニックMiRAIの機能分化と連携を進め、医療提供体制の整備が進展しました。

しかしながら、人件費や材料費などの固定費の増加と収益構造との乖離は依然として大きく、収支構造の改善は喫緊の課題です。また、DX投資の効果発現と経営への実装、組織横断的なPDCAの体制の実効性確保など、経営管理の高度化に向けた課題も顕在化しています。

今後は、収入の最大化と支出の適正化を両立させた持続可能な経営体制の確立を図る必要があります。教育・研究面では、入試戦略の高度化と教育の質向上を通じて学納金収入基盤の安定化と研究活動の活性化により補助金収入の増加を図ります。また、高齢化社会に対応した医療人材の育成を一層強化するため、新たに総診・内科救急センターを設置し、総合的に患者を診る能力を備えた医師の養成を推進します。診療面では、機能分化と地域連携の深化により医療収入の安定化を進めるとともに、大学病院としての高度医療機能を維持・強化し、令和8年度診療報酬改定を見据え、ベースアップ評価の動向も踏まえながら、人材確保と処遇改善を両立する持続可能な構造の構築に取り組み、併せて、循環型診療システムの実装を進め、救急から在宅まで切れ目のない医療提供体制の確立を図ります。運営面では、人件費を中心とした固定費の適正化を進めるとともに、働き方改革と一体となった人事給与制度の見直しにより、職員が能力を最大限発揮できる組織体制を構築し、DXを経営改革の中核と位置付け、情報の一元化・可視化を進めることで、全学の部門別の経営管理を高度化し、迅速かつ適切な意思決定を可能とする体制を整備するよう進めます。

本学は、学是「具眼考究」の下、本質を見極め不

断に改革を進めることで、次の50年に向けて更なる発展と飛躍を実現し、社会から信頼され選ばれる医科大学であり続けることを目指していきます。

令和7年度の医療収入決算額は、令和6年度の488億円強を上回る536億円強（対前年比9.84%）を計上できました。一方、支出の中で大きなウェイトを占める人件費については、令和7年度からの新人事・給与制度改革の効果もあり、人件費率は4.6ポイント低下し、37.9%となりました。また、大学の発展と将来の収入確保につながる事業についても、着実に推進しました。

こうしたことから、事業活動収支差は20億880万円強のマイナスとなりました。

事業活動収支計算書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

（単位：百万円）

		科 目	金 額	前年差
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,925	23
		手数料	220	△ 2
		寄付金	938	596
		経常費等補助金	3,109	1,087
		付随事業収入	709	△237
		医療収入	53,683	4,787
		雑収入	873	△40
		教育活動収入計	64,457	6,214
	事業活動支出の部	人件費	24,448	△304
		教育研究経費	38,581	3,580
		管理経費	1,165	△ 2
		徴収不能額等	25	19
		教育活動支出計	64,219	3,293
		教育活動収支差額	238	2,921
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	22	4
		教育活動外収入計	22	4
	事業活動支出の部	借入金等利息	213	6
		教育活動外支出計	213	6
				教育活動外収支差額
		経常収支差額	46	2,919
特別収支	事業活動収入の部	その他の特別収入	205	106
		特別収入計	205	106
	事業活動支出の部	資産処分差額	48	7
		その他の特別支出	2,212	2,191
		特別支出計	2,260	2,198
				特別収支差額
基本金組入前当年度収支差額		△2,009	827	
基本金組入額合計		△1,768	2,191	
当年度収支差額		△3,777	3,018	
前年度繰越収支差額		△80,603	△6,794	
翌年度繰越収支差額		△84,380	△3,777	

（参考）

事業活動収入計	64,683	6,324
事業活動支出計	66,692	5,497

（注1）科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

（注2）＜－＞の表記は、計算上ゼロあるいは該当数字なしを示し、＜0＞の表記は、単位未満を切り捨てた場合のゼロを示す。

資 金 収 支 計 算 書

令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで

(単位：百万円)

収 入 の 部		
科 目	金 額	前年差
学生生徒等納付金収入	4,925	23
手数料収入	220	△ 2
寄付金収入	936	585
補助金収入	3,280	1,216
（国庫補助金収入）	(2,445)	(1,068)
（地方公共団体補助金収入）	(834)	(148)
（若手・女性研究者奨励金収入）	(0)	(0)
資産売却収入	-	-
付随事業・収益事業収入	709	△237
医療収入	53,683	4,787
受取利息・配当金収入	22	4
雑収入	878	△35
借入金等収入	1,912	852
前受金収入	917	△ 9
その他の収入	9,893	595
資金収入調整勘定	△12,353	△1,976
前年度繰越支払資金	4,761	△2,880
収入の部合計	69,782	2,923

支 出 の 部		
科 目	金 額	前年差
人件費支出	24,799	238
教育研究経費支出	34,208	3,750
（うち医療経費支出）	(31,686)	(3,645)
管理経費支出	771	△34
借入金等利息支出	213	6
借入金等返済支出	1,053	129
施設関係支出	674	△620
設備関係支出	1,035	△639
資産運用支出	20	△40
その他の支出	6,654	△1,117
資金支出調整勘定	△6,365	△709
翌年度繰越支払資金	6,720	1,959
支出の部合計	69,782	2,923

(注 1) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

(注 2) < - > の表記は、計算上ゼロあるいは該当数字なしを示し、< 0 > の表記は、単位未満を切り捨てた場合のゼロを示す。

貸 借 対 照 表

令和 8 年 3 月 31 日現在

(単位：百万円)

資 産 の 部		
科 目	金 額	前年差
固定資産	41,759	△2,973
有形固定資産	40,359	△2,620
土 地	10,115	239
建 物	23,182	△1,678
構築物	855	△119
教育研究用機器備品	4,933	△1,027
管理用機器備品	327	9
図 書	904	3
車 両	36	△24
建設仮勘定	7	△23
特定資産	583	△45
学校債償還引当特定資産	420	△40
借入金返済引当特定資産	100	0
医療機器等整備調整資金引当特定資産	25	0
国際交流推進引当特定資産	26	△ 3
教育研究活性化引当特定資産	12	△ 3
その他の固定資産	817	△308
借地権	-	△20
電話加入権	5	-
施設利用権	58	△15
ソフトウェア	142	△302
有価証券	11	-
長期貸付金	601	29
保証金	0	-
預託金	0	0
流動資産	19,065	4,001
現金預金	6,720	1,959
未収入金	11,397	1,970
貯蔵品	566	117
短期貸付金	199	△49
立替金	2	△ 0
前払金	181	4
資産の部合計	60,824	1,028

負 債 の 部		
科 目	金 額	前年差
固定負債	25,047	305
長期借入金	17,107	601
学校債	370	△30
長期未払金	441	△369
退職給与引当金	7,129	103
流動負債	11,095	2,731
短期借入金	1,291	297
1 年以内償還予定学校債	50	△10
未払金	6,570	686
前受金	927	△ 9
預り金	501	10
賞与引当金	1,756	1,756
負債の部合計	36,142	3,037
純 資 産 の 部		
科 目	金 額	前年差
基本金	109,062	1,768
第 1 号基本金	104,467	1,484
第 4 号基本金	4,595	284
繰越収支差額	△84,380	△3,777
翌年度繰越収支差額	△84,380	△3,777
純資産の部合計	24,682	△2,009
負債及び純資産の部合計	60,824	1,028

(注 1) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

(注 2) < - > の表記は、計算上ゼロあるいは該当数字なしを示し、< 0 > の表記は、単位未満を切り捨てた場合のゼロを示す。

■前年度との比較（主な増減）

（１）事業活動収支計算書

令和 7 年度決算は、事業活動収入64,683百万円（前年度比10.8%増）、事業活動支出66,692百万円（前年度比9.0%増）となり、この収支差額は、△2,009百万円となりました。経常的な収支バランスである経常収支差額は、46百万円となり、臨時的な収支バランスの特別収支差額は、△2,055百万円となりました。経常収支差が前年度から2,919百万円改善、医療収入額は前年度から4,787百万円増加しています。

（２）資金収支計算書

資金収入の部合計は、698億円 で前年対比2,923

百万円の増加となっていますが、調整勘定等を除く実質的な収入は約77億7,900万円の増加、同様に実質的な資金支出の部合計は、16億7,300万円の増加となりました。

（３）貸借対照表

資産総額は前年比10.3億円（1.7%）増加の608億円となりました。また、純資産額は前年比△20.1億円（△1.7%）減少の247億円となりました。

なお、詳細についてはホームページをご覧ください。<https://www.aichi-med-u.ac.jp/files/soumu/R07zigyhouhoukokusyo.pdf>

計 報

運動療育センター事務室 中條 孝弘診療支援監 御逝去



令和 8 年 6 月 20 日（土）、運動療育センター事務室の中條 孝弘診療支援監がご逝去されました。享年67歳でした。

中條診療支援監は、昭和58年 4 月に本学に入職。医事課において外来業務をはじめとする医事業務に携わり、主任、係長、担当課長、病院事務部長（心得）、医事管理部長を務めるなど、長きにわたり病院運営を支えてられました。新病院建設プロジェクトでは、患者フロー改革を始めとする新たな病院システムの構築にも力を尽くし、現在の病院の礎を築く上で大きな役割を果たされました。

豊かな経験と確かな仕事への姿勢を持ちながら、常に人とのつながりを大切にする方でした。後輩には時に厳しく、しかし常に温かく向き合い、その一人ひとりの成長を願いながら、後進の育成にも尽力されました。その仕事に対する誠実な姿勢と人を思いやる心は、多くの職員の胸に刻まれ、今も本学の中に受け継がれています。

令和 8 年 4 月からは運動療育センターに所属。短い期間ではありましたが、その温かなお人柄は職員だけでなく、多くの会員の皆さまにも伝わり、親しまれる存在となりました。

病床にあっても、ご自身のことより周囲を気遣い、「本当に良くしてもらった」、「皆さんにありがとうを伝えたい」と話されていました。愛知医科大学で働くことに大きな誇りを持ち、大学を心から愛しておられた中條診療支援監。最後まで周囲への感謝を忘れず、その言葉には、これまで出会った多くの人への深い敬意と温かな思いが込められていました。

長きにわたり本学を支え、多くの人に信頼され、愛されてきたその歩みに、深い敬意と感謝を表します。中條診療支援監が残された仕事への誠実さと人を思いやる心は、これからも本学の中で静かに受け継がれていくことでしょう。

ここに謹んで哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

令和8年度医学部後援会定期総会開催

新会長に野場 万司氏を選出



令和8年5月24日（日）大学本館たちばなホールにおいて、令和8年度医学部後援会・医学部互助会定期総会が開催されました。今年度の総会は、特に互助会に関する議案があったため、

午前9時30分から互助会の定期総会を先行して始め、午前10時から例年どおりの後援会・互助会合同の定期総会に移りました。

初めに、令和7年度医学部後援会・医学部互助会の事業報告及び決算報告と後援会会則改正案の提案があり、原案どおり承認されました。続いて、令和8年度役員改選を行い、新会長として野場万司氏【写真】を始め18名の新役員が選出されました。新役員を代表して野場新会長からは、「家庭だけではでき

ないこと、大学だけでは手の届かないところを支える必要があります、そこに私たち保護者が集うこの後援会の存在意義があります。大学と緊密に連携しながら、学生たちが安心して夢に向かって突き進み、いつか社会へ羽ばたくその日まで、私たちが最大の応援団であり続けたいと願っています」とのあいさつがありました。その後、令和8年度事業計画及び予算案が原案どおり承認され、総会は終了しました。

総会終了後には、笠井謙次医学部長、鈴木耕次郎教務部長、宮本淳学生部長、岩船徹雄法人本部長からごあいさつがあり、レストランオレンジでの昼食を挟んで、午後1時20分から主に4～6学年次生の保護者を対象とした国試対策懇談会が開催されました。

令和8年度看護学部父母会定期総会開催

新会長に若林 知美氏を選出



令和8年5月16日（土）午前10時から令和8年度看護学部父母会定期総会がオンライン（Zoom）形式にて開催されました。

田上寛会長のあいさつの後、令和7年度の事業報告及び決算報告がなされ、続いて役員の改選が行われました。新会長に若林知美氏（4学年次生ご父母）【写真】が選出され、その他の役員として15名の方が選出されました。その後、新役員によって議事進行がなされ、令和8年度事業計画及び予算について、原案のとおり承認されました。

議事終了後、若杉里実看護学部長から「令和7年度の看護学部の取り組み」について、心光世津子教務学生部長から「有意義な大学生活を支えるために～最近のTopics～」についての報告と説明があり、併せて平素からの父母会による教育活動への協力に対する感謝の言葉が述べられ、定期総会を終了しました。

定期総会終了後には、引き続きオンライン形式による「学年別懇談会」が開催され、ご父母と各学年次主任・副主任により、学生生活や学修内容などについて様々な意見交換が行われました。

令和8年度愛知医科大学公開講座

行ってみよう！聴いてみよう！医科大学の公開講座 ～カラダと向き合う土曜日～

本学では、教育・研究を広く社会に開放し、地域社会の教育・文化向上に寄与することを目的として、一般市民を対象に公開講座を開催しております。今年度の公開講座は、「カラダと向き合う土曜日」をテーマとして開催致します。

受講内容等は次のとおりです。

- 受講対象者 一般市民
- 募集人数 400名（申込制）
- 受講料 無料
- 会場 大学本館たちばなホール

開催日	講演時間	テーマ及び講師
9月5日（土）	10:00～10:40	脳卒中よもやまばなし 神経内科 特命教授 道勇 学
	10:50～11:30	膵臓癌の早期診断を目指して 肝胆膵内科 助教 北野 礼奈
	11:40～12:20	においがわからないってどういうこと！？ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授 小林 正佳
9月12日（土）	10:00～10:40	健康寿命を延ばすための心臓・血管病予防 ～愛知医大病院が地域とともに目指す、安心の循環型地域医療～ 循環器内科 教授 鈴木 頼快
	10:50～11:30	感染看護の視点で考える“安心できる療養環境”のつくり方 感染看護学 特命教育教授 矢野 久子
	11:40～12:20	緑内障・白内障の最新治療 近視進行抑制寄附講座 教授 三木 篤也
9月26日（土）	10:00～10:40	地域に貢献する総合医を育てる 総診・内科救急センター 教授 津田 雅庸
	10:50～11:30	「食べる・話す・笑うを支えるお口の力」 ～健康長寿のために今できること～ 歯科口腔外科 教授 古橋 明文
	11:40～12:20	認知症と向き合う ～日常生活の中でできる認知症予防と病者の理解～ 老年看護学 特命教育教授 勝野とわ子

～愛知県委託事業～

「令和8年度介護施設等防災リーダー養成研修事業」に採択

愛知県の委託事業である介護施設等防災リーダー養成研修事業に今年度も本学が採択され、6年連続の採択となりました。

本事業は、災害医療研究センターが中心となり、高齢者介護施設等に勤務する職員を対象とした「防災リーダー養成研修」を実施し、防災リーダーの育成に貢献しています。

近年頻発している大規模地震などの激甚災害によ

り、要配慮者を預かる介護施設等の被害も甚大となっています。講義や机上演習を通して介護施設等がどのような被害を生じ、その対策として何が必要かを考えるとともに、各介護施設等が策定されているBCP（業務継続計画）がより現実味・実効性のあるものに改正する一助となるよう、繰り返し視聴可能な事前オンライン研修とグループディスカッションを中心とした集合研修（対面）を企画しています。

【開催概要】

1 開催日程（全回同内容）

開催回	日 程	対 象	会 場
第1回 第2回 第3回	9月3日（木） 13：30～16：30 9月4日（金） 9：30～12：30 9月4日（金） 13：30～16：30	三河地区	豊川市勤労福祉会館 大研修室
第4回 第5回 第6回	12月17日（木） 13：30～16：30 12月18日（金） 9：30～12：30 12月18日（金） 13：30～16：30	西尾張地区	尾張一宮駅前ビル i ビル 大会議室
第7回 第8回 第9回 第10回	2月4日（木） 9：30～12：30 2月4日（木） 13：30～16：30 2月5日（金） 9：30～12：30 2月5日（金） 13：30～16：30	東尾張地区ほか 県内全域	日赤愛知災害管理センター棟 （日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院）

2 受講料 無料

3 定 員 各回先着50名

わくわく体験リニモツアーズ2026 「“コードブルー”の世界 救急医療について学び、 考えてみよう！」開催

東部丘陵線（リニモ）沿線の魅力を満喫し、学び楽しむ小学生対象のイベント「わくわく体験リニモツアーズ2026」が、愛知県都市・交通局交通対策課を事務局とする東部丘陵線連絡協議会の主催により開催されました。本イベントは、リニモ沿線施設での体験講座を通じて、子供達の環境学習や社会学習等の効果が期待されるものであり、本学も体験講座の実施施設の一つとして同事業に協力しています。

本学では、令和8年7月21日（火）の午前中に「“コードブルー”の世界 救急医療について学び、考えてみよう！」と題した体験講座を開催し、多くの小学生及びその保護者にご参加いただきました。体験講座では、ドクターヘリの見学会、ドクターヘリに関する講演会や質疑応答が行われ、講演会では、本院のフライトドクターとフライトナースによる講演がクイズ形式で行われました。ドクターヘリや仕事内容についての説明に加え、普段聞くことができない医療現場での話に対し子供達からは積極的に手が上がり、楽しみながら救急医療を学んでいただくことができました。

ドクターヘリの見学会では、機体の迫力を間近で感じ、多くの参加者が機体との記念撮影を行いました。また、フライトナース達が現場に駆けつける際



講演会



ドクターヘリ見学会

に背負うリュックの重さに子供達は驚いていました。

最後には、参加者全員に大学オリジナルグッズ（ドクターヘリの特製キーホルダー）を配付し、体験講座は盛況のうちに終了しました。

令和8年度愛知医科大学感謝の集い開催

令和8年6月7日（日）に高額寄附者に謝意を示す感謝の集いが開催され、30名の寄附者にご出席いただきました。

第1部では式典を開催し、羽生田正行理事長が「これからも社会のニーズに応える大学として、最新の医療提供に邁進し、職員一同頑張る所存です。今後とも是非ご支援を賜りたく存じます」とあいさつされ、寄附者一人ひとりに感謝状が授与されました。

第2部では、最先端のリハビリテーション施設「《プロリハ》リハビリテーション」の見学会が行われました。リハビリテーション医学講座の尾川貴洋教授が講師を務め、早い時期からの積極的なリハビリ開始が効果的な回復につながることを説明されました。映像に合わせて歩行訓練ができる設備「GRAIL」のデモンストレーションも行われました。

第3部の懇談会では、伊藤恭彦学長があいさつを



《プロリハ》最新設備見学の様子

述べた後、寄附者の一人として三宅養三元理事長のお言葉がありました。和やかな雰囲気の中、羽生田理事長、伊藤学長が各テーブルを回り、寄附者の方々と歓談されました。

出席された寄附者の多くは医療機関で活躍されている本学卒業生で、本学の新たなプロジェクトや最新施設を知る機会となりました。

愛知医科大学SDへの取り組み

本学では、「SD（スタッフディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み」を積極的に行っております。

令和8年度新規採用事務職員研修実施

令和8年4月10日（金）から6月12日（金）までの期間のうち、全8日間の令和8年度新規採用事務職員研修が実施されました。

本研修では、事務部門のうち19部署の先輩職員が講師となり、各部署の役割や機能、業務内容、目標などについて紹介しました。【写真】各所属の業務概要だけでなく、実際の業務の進め方や他部署との関わり、仕事のやりがいなどについても、現場で働く職員ならではの視点から説明が行われました。

受講者は、日頃関わる機会の少ない部署の業務について理解を深めるとともに、大学全体が様々な部署の連携によって支えられていることを学ぶ機会となりました。研修は主に毎週金曜日の夕方に実施され、同期の職員が定期的に顔を合わせる機会にもな



りました。業務に関する知識を習得するとともに、同期の職員が交流を深める機会となり、各部署の役割や事務部門全体への理解を深める研修となりました。

令和7年度新規採用事務職員1年フォロー研修

令和8年5月13日（水）午後2時30分から大学本館711特別講義室において、令和7年度新規採用事務職員を対象として、配属後1年を一つの区切りとした1年フォロー研修が実施されました。

今回の研修では、個人ワーク及びペアワークが行われ、「1年間どのような業務を行ってきたか」、「1年を通じて学んだこと、後輩へのメッセージ」をテーマに発表資料を作成しました。その後、令和8年度新規採用事務職員に向けてプレゼンテーション発表を行い、自身の経験や学びを交えながら、業務への取り組み方や心構えを伝えました。発表では、聞き手を意識してスライド構成や説明方法を工夫するなど、主体的に取り組む姿が見られました。

受講者からは、「自身の業務内容を振り返る良い機会となった」、「普段の業務では複数名の前で発表



令和7年度新規採用事務職員による発表

する機会がないため、貴重な経験になった」といった感想が寄せられました。また、聴講した新規採用職員からも、「今後の業務への取り組み方の参考になった」との声があり、先輩職員の経験を共有する有意義な研修となりました。

令和8年度全学コミュニケーション研修実施

令和8年7月16日（木）、17日（金）に大学本館たちばなホールにおいて、全教職員を対象とした全学コミュニケーション研修を実施し、321名の教職員が参加しました。

研修では、心理的安全性の高い職場づくりにおいて、お互いのことを理解することの重要性や、良好なコミュニケーションを形成するために必要な傾聴力・質問力・承認力を、豊富なケーススタディを通じて学びました。

アンケート結果には、「価値観の相違を理解した上で、相互理解に努めたいと感じた。良いチームワークを作るには、信頼関係を築く事が大切。色々な人と積極的にコミュニケーションをとり、年配・若手問わず、学び、吸収したいと思う」、「相槌の仕方や



研修の様子

褒め方など、少しの違いで相手がどのように受け取るのかが大きく変わってくることを知ることができた。今回の講義で学んだ方法を活用して、関係性構築に活かしていきたい」との感想がありました。

【高大連携事業】総合学術情報センター（図書館部門）の利用

総合学術情報センター（図書館部門）では、愛知県立長久手高等学校と本学との高大連携事業の一環として、令和元年度から、同高校の生徒及び教員に施設を開放しています。平日は午後7時まで、土曜日は午後6時30分まで利用可能で、学術資料の閲覧・複写・貸出、学習目的での閲覧席の使用、医療系データベースの検索、電子図書・電子雑誌の閲覧等、本学学生とほぼ同様のサービスが利用可能です。令和7年度は延べ152名が入館し、19冊の貸出があるなど、年間を通じて活用されました。

令和8年5月27日（水）には、長久手高等学校の医療看護コース第2学年の生徒17名を対象に、本学司書による図書館利用ガイダンスが実施されました。また、6月17日（水）には、来館した第2学年と第



ガイダンスを受ける高校生

3学年の生徒による文献検索も行われました。

今後も生徒の皆さんに、図書館を積極的に役立ててもらえることを期待しています。利用ガイダンスの様子は本学公式SNSにも掲載しておりますので、是非ご覧ください。



献血ご協力ありがとうございました

令和8年6月4日（木）・5日（金）に大学本館1階南側ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され、職員・学生ともに多くの方にご協力いただきました。今回は初の試みとして2日間実施した結果、開始以来最多の献血受付数となりました。

せっかく献血をお申し出いただいたのに体調によりご協力いただけなかった方々には、ご自愛いただき、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお

夏の団体献血（結果）

・ 献血受付数	・ 132名
・ 献血できた方	・ 104名 (400mL・87名)
・ 献血できなかった方	・ 28名

願います。

今回は令和9年1月頃に予定していますので、ご協力よろしく願います。

教授就任インタビュー



数理科学・教授

はしもと たかひろ
橋本 貴宏

—教授就任に当たっての抱負を聞かせてください。—

令和8年5月1日付で数理科学の教授を拝命致しました。学科目名が、これまでの「数学」から「数理科学」に看板を掛け替えてのスタートとなります。どうぞよろしくお願い致します。

数理科学とは、数学を基盤として現実の世界を理解し、様々な問題の解決に取り組む研究分野です。今回の学科目名変更には、数学をより広い領域で活用していくことへの期待が込められていると受け止めています。基礎科学教員として本学に着任して以来、数学を生命科学の基盤として教えることから出発し、統計学、情報学、ICTを活用した教育へと取り組みを広げてきました。今回の学科目名変更は、これらを数理科学教育として体系化し、更に発展させる契機にしたいと考えています。

今後は、これまで整備を進めてきた「数理・データサイエンス・AI教育」を充実させ、応用基礎レベルの認定を目指します。統計学や情報学など複数の科目にまたがる内容を整理し、学生が段階的かつ体系的に学べる教育プログラムを整備するとともに、基礎医学・臨床医学への接続とPBL教育の充実を図ります。また、これまでICT支援と教務の双方に携わってきた立場から、教育環境の整備と全学的な教育支援体制の充実にも取り組みます。

—現在の研究分野に進まれたきっかけを教えてください。—

高校時代、自然界を一つの理論で説明しようとする統一理論に興味を持ち、物理学を志して大学に進みました。入学した物理学科では、物理現象を方程式で表し、その性質を数学的に明らかにすることへと関心が移り、偏微分方程式論を研究するようになりました。

その後、教育の場が数物系学科から医学科へと移り、基礎科学プレチュートリアル指導など、これまでとは異なる教育課題に携わるようになりました。また、教育に関する共同研究に参加する機会を得たことから、医学教育も研究対象の一つとなりました。更に、ICTを活用した授業やオンライン教育の整備に携わる中で、ICT活用教育へも研究の領域を広げてきました。

—学生へのメッセージをお願いします。—

自分の学生時代を振り返ってみると、随分自由気ままに過ごしていたと思います。社会人として働くようになり、年月を経て、その貴重さを強く感じるようになったのは、友人の存在です。学生時代の経験は、勉強も含め、やがて自分の糧となります。それとともに、同じ時間を過ごす仲間との関係は、その後の人生を支え、豊かにしてくれるものです。皆さんにも、友人たちとの時間を大切に過ごしてほしいと思います。

オフショット



2025年医学教育学会in秋田、懇親会前のイベントにて



外国語・教授

ひらた あき
平田 亜紀

—教授就任に当たっての抱負を
聞かせてください。—

この度、医学部基礎科学部門における外国語の教授を拝命致しました。よろしくお願い申し上げます。教授に就任すれば、もう少ししっかりとした人間になれるのではないかと考えていたのですが、原稿執筆現在、昨日の延長上にいる私というだけでした。昨日まで大切にしてきたことが今日突然変わるわけではないという小さな発見をしたように思います。一方で、「立場が人をつくる」という言葉にあるように、自分の役割について考えることは以前より増えました。基礎科学の教員として、外国語や行動科学を通して、学生が今まで見てきた風景を少し違う角度から眺めたり、自分とは違うものの見方に出会ったりできる環境を積極的に作ることも、その役割の一つだと考えています。それを昨日までと同じように大切にしながら、教授という新しい役割に恥じないよう、私自身が成長し続けていければと思っています。

—現在の研究分野に進まれた
きっかけを教えてください。—

私はいわゆる帰国子女で、小学3年生の頃に帰国し、学習言語としての日本語を学び始めました。それまで日本語は家族という小さなコミュニティの中で使う生活言語で、学校や地域ではフランス語に触れていました。日本での生活を始めて驚いたことの 하나가、水道の蛇口から出てくる水をそのまま飲むことでした。安全な水が身近にあることが当たり前の世界を、小さ

な私は知らなかったのです。その後、中学2年生でアメリカに渡り、今度は英語やアメリカ中西部の文化と格闘する日々が始まりました。言語の壁、文化の壁、暗黙知の壁など、自分にとっての「当たり前」が相手にとってもそうとは限らないことを肌で感じたのです。言語、文化、そして人の行動そのものに関心を持つようになったのは自然なことかもしれません。より体系的に学ぶために、学部では外国研究を、大学院では行動科学を学び、現在の研究へとつながっています。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

私のオリジナルではないのですが、学生時代に教えてもらい今でも大切にしている考え方をそのままお伝えします。それは「保留をすること」です。熟考することあれば、ただ端に置いておくこともあります。相手や状況を自分のレンズだけで決めつけず、少し様子をみる。新しい情報が集まるまで、判断を急がない。すぐに答えを出すことが求められる時代、医療に関わる職業に就く皆さんだからこそ、複雑な判断を求められるときには、あえて「保留する」こともチラリと思い出してほしいと思います。私自身は、日常でも仕事の場面でも、思いのほか、この心掛けに助けられることが多いです。

オフショット



インドア派

折り図は様々な作家のものを参考。
そのうち自身のデザインを、というひそかな野望あり。



外科学講座（消化器外科）・教授

ふかみ やすゆき
深見 保之

—教授就任に当たっての抱負を
聞かせてください。—

私はこれまで、愛知医科大学病院において、肝胆膵外科を中心とした消化器外科診療に邁進して参りました。近年、消化器外科領域では、低侵襲手術の進歩、周術期管理の高度化、がん薬物療法の発展などにより、診療内容が大きく変化しております。特に高齢化社会を迎えた現在、単に手術を安全に行うだけでなく、患者さん一人ひとりの背景に寄り添った集学的かつ全人的な医療が求められています。このような変革期において、本講座では「安全で質の高い外科医療の提供」、「次世代を担う外科医の育成」、「世界に発信できる研究成果の創出」を三本柱として講座運営を行って参ります。

愛知医科大学は、地域医療への貢献を根幹としながら発展を遂げてきた大学です。その伝統を継承しつつ、新しい時代に求められる大学病院・外科学講座の在り方を模索して参ります。患者さんに希望を届けるための高度で安全な外科医療の提供と、次世代外科医の育成に全力を尽くす所存です。

—現在の研究分野に進まれた
きっかけを教えてください。—

高校時代、何気なく手に取った漫画『ブラック・ジャック』に心を奪われ、その圧倒的な格好良さと誇り高き姿に魅了されたことが、外科医を志した原点です。

数ある外科領域の中でも、特に肝胆膵外科は緻密で卓越した手術技術はもちろん、不測の事態にも動じない強い精神力、いわゆる「胆力」が強く求められます。

困難な症例に立ち向かうその高い壁と奥深さを知ったとき、「生涯を捧げる仕事として相手にとって不足なし」と強い覚悟が芽生えました。

少年の頃に憧れた情熱を胸に、現在は更なる技術の研鑽と、未来を担う後進の育成に全力を注いでいます。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

私は高校時代落ちこぼれ、研修医の頃も解剖すらろくに分からない状態でした。しかし、消化器外科が楽し過ぎて夢中で走り続け、今に至ります。

マイケル・ジャクソンの映画『Michael』を4回観ましたが、作中の「I wanna be who I wanna be.」という言葉が心に響きます。過去や今の成績は関係ありません。情熱があれば何にでもなれます。自分を信じ、共に挑戦しましょう。

オフショット



去年再会した仲良い友達
左から筆者、Taipei Veterans General HospitalのShin-E Wang教授、
Seoul National University HospitalのJoon Seong Park教授



内視鏡センター・教授

おがさわら **小笠原** なおたか **尚高**

—教授就任に当たっての抱負を
聞かせてください。—

内視鏡センターは、平成17年7月に開設され、平成26年の新病院開院に伴い、現在の施設へ移転しました。最新の内視鏡システムやファイリングシステムを備え、日常診療から高度な内視鏡治療まで幅広く対応しています。新病院への移転後、本格稼働して12年が経過し、内視鏡診療の年間件数は、設立当初の約2倍となる1万件を超えるまでに増加しました。看護師も増員され、検査室をほぼフル稼働できる体制が整い、24時間体制で救急内視鏡にも対応しています。内視鏡医療は日々進歩しており、AIを活用した画像診断や低侵襲治療など、新しい技術が次々と実用化されています。こうした新しい技術を積極的に取り入れ、日々の診療に活かすだけでなく、教育や研究にもつなげていきたいと考えています。そして、学生や若い医師が「この内視鏡センターで学びたい」と思えるような魅力ある環境を作り上げていきたいと思っています。今後も「最高レベルの内視鏡医療を安心・安全に提供する」という内視鏡センターの理念の下、スタッフ一人ひとりの力を結集し、診療、教育、研究の更なる充実と発展を目指して参ります。

—現在の研究分野に進まれた
きっかけを教えてください。—

旭ろうさい病院で臨床医として7年間過ごした後、大学へ帰局することになったのですが、当時の上司の勧めもあり、大学院へ進学し、愛知県がんセンター研

究所腫瘍病理学部に籍を置くことになりました。臨床の現場では、内視鏡で癌を発見し内視鏡で切除する、内視鏡的・外科的に切除できない癌に対しては化学療法で治療するというように、目の前にある「結果」に対応していました。一方で、発癌のメカニズムを解明することで、そもそも癌が発生しないようにするという「予測」の視点に基礎研究の魅力を感じていました。実際に研究分野に身を置いてみると、臨床現場における疾患に対する「考え方」や「見方」が大きく変わりました。日常の何気ない診療においても、「なぜ?」「どうして?」という疑問がいくつも頭に浮かぶようになりました。そして、この「なぜ?」を研究することが、これまで分からなかった疾患の病態を解明する手掛かりになることを知りました。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

科学技術の進歩に伴い、医療分野における基礎研究も目覚ましい発展を遂げています。新たな機器や研究手法が開発されたことで、様々な疾患のメカニズムが解明され、これまでにない新規の治療法や治療薬が次々と開発されています。基礎研究は、臨床の現場ですぐに直接役立つものばかりではありません。しかし、基礎研究に触れることで、物事を深く考える洞察力や考察力が養われ、日常診療においても、より質の高い医療を実践することにつながると考えています。これからも、基礎研究の魅力や醍醐味を後輩医師に伝えていきたいと思っています。そして、後輩医師の手本となるように自分自身も常に学び続け、研鑽を重ねていかなければならないと決意を新たにしています。ぜひ皆さんにも、日々の実習や勉強の中で感じた「なぜ?」「どうして?」という疑問を大切にしてほしいと思います。その小さな疑問が、将来の研究につながり、医学の進歩につながることがあります。



臨床実践看護学・教授

くろさわ まさひろ
黒澤 昌洋

—教授就任に当たっての抱負を
聞かせてください。—

令和8年7月1日付で、看護学部臨床実践看護学の教授を拝命致しました。平成14年に初めての4年制看護系大学卒業生として愛知医科大学病院へ入職以来、男性新人看護師初の高度救命救急センターICUでの勤務、男性看護師初の修士課程修了、診療看護師（NP）1期生として活動、大学病院看護部看護師特定行為研修の立ち上げなど、大学初めてとなる多くの貴重な経験を重ねて参りました。これもひとえに、諸先輩方をはじめ多くの方のご指導とご支援の賜物と深く感謝しております。平成28年からは看護学部のほか、大学院修士課程における診療看護師（NP）の育成、博士後期課程DNPコースの教育に携わって参りました。診療看護師（NP）として教授に就任するのは全国初であり、その責任の重さを感じております。今後も皆様のご指導を賜りながら、本学が診療看護師（NP）の教育・研究・実践を牽引する先導的拠点として、更に発展できるよう尽力して参ります。

—現在の研究分野に進まれた
きっかけを教えてください。—

私の看護の原点はICUにあります。新人看護師の頃は、疾患や治療に関する知識・技術の習得に懸命でした。そんな私に先輩看護師が投げかけた「看護師として患者さんにどのような看護がしたい？」という問いが、現在の研究につながる出発点となりました。「看護学と医学は何が異なるのか」という問いを、現象学を

手掛かりに考え、看護学部開設者である故馬場昌子先生のターミナル研究会への参加や、初代学部長の高橋照子先生のご指導の下で理論看護学を学び、修士・博士の学位を取得しました。今後も、看護職の役割が拡大する時代だからこそ、変わることのない「看護の本質とは何か」を探究していきたいと考えています。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

高度救命救急センターでの看護経験を通して、私が学んだ最も大切なことの一つは、「救命」には二つの意味があるということです。一つは、高度な医療によって生物学的な「生命」を救うこと。もう一つは、その人らしい人生や、その人の存在としての「いのち」を支えることです。学生の皆さんには、人として患者さんに向き合い、「生命」と「いのち」の両方を支えることのできる看護師になってほしいと願っています。

オフショット



蝶ヶ岳から槍ヶ岳・穂高岳を望む

医学部長・看護学部長 所信表明

令和8年5月28日（木）午後5時30分から大学本館301講義室において、笠井謙次医学部長及び若杉里実看護学部長による所信表明演説が対面とオンラインによるハイブリッド型の講演会形式で実施されました。

始めに、笠井医学部長からの所信表明として、第1期・第2期を踏まえ、「今後2年間のスケジュール」、「国試結果から見えること」、「なぜ研究ができないのか」、「原点回帰」の四つのカテゴリーに分けて、第3期の方策や意気込みが述べられました。「国試結果から見えること」については、過去のデータに基づく現状分析や科目試験等の改善、試験制度の在り方に関する考えについて、展望も含めた方向性が示されました。

続いて、若杉看護学部長からの所信表明として、持続可能な組織の発展を目指し、今期に中心となる次の五つの施策（①教員の育成(教育力・研究力の向上)、②最新の看護学教育モデル・コア・カリキュラムを踏まえた教育改革の推進、③入学者選抜の改



笠井医学部長



若杉看護学部長

革推進、④修士課程から博士後期課程までの一貫した博士課程教育の構築に向けた教育改革の推進、⑤地域貢献を学生のキャリア形成に活かすための地域や他部署との連携・協働の推進）に係る方策や意気込みが述べられました。

当日は、オンライン含め羽生田正行理事長、伊藤恭彦学長をはじめとする多数の方に出席いただき、両学部長が目指す学部運営のビジョンを共有することができました。

大学の未来を語る会開催

令和8年7月1日（水）午後6時から大学本館711特別講義室において、大学の未来を語る会が開催されました。

本会は、医学部学生と本学役員が、本学の将来や医療の未来について自由に意見交換を行うことを目的として開催しているものです。当日は、医学部学生9名と伊藤恭彦学長、笠井謙次医学部長、鈴木耕次郎教務部長、宮本淳学生部長が参加し、「本学の未来・医療、自分の未来」をテーマに活発な意見交換が行われました。

学生からは、AI時代に求められる医師の在り方やAI教育の必要性、本学の魅力発信、多様なコミュニティとの交流、地域との関わり、学生の主体性の向上、学費と人材育成などについて多くの意見や提案がありました。大学役員からも、医師として必要な人間力や感性、大学への誇り、主体性の重要性



参加者との記念撮影

などについて意見が示され、終始和やかな雰囲気の中で有意義な懇談が行われました。

終了後のアンケートでは、「先生方と直接お話する機会はあまりないため、大変貴重で新鮮な機会となりました」、「志を高く持った先輩方の多様な意見を聞くことができて面白かったです」といった感想が寄せられました。

令和8年度医学部解剖慰霊祭挙行

令和8年5月11日（月）、覚王山日泰寺において医学部解剖慰霊祭が厳かに執り行われ、ご遺族をはじめ、不老会、教職員及び医学部2学年次生など関係者約218名が出席しました。

令和7年度中に系統解剖と病理解剖へご遺体を供せられた63柱が新たに合祀され、総数5,563柱の御霊に対し、参列者一同はご冥福をお祈り致しました。

祭儀では、笠井謙次医学部長、公益財団法人不老会の浅井直樹常務理事が慰霊の辞を述べました。続いて、学生代表の遠藤寛さんが「医師になった際には、解剖実習での学びを少しでも患者さんに還元し、ご献体くださった方々の御意志に応えることができるように、精進して参ります」と礼辞を奉読し、御霊に深い感謝と尊崇の念を捧げました。

焼香の段では、笠井医学部長、解剖学講座を代表して内藤宗和教授、病理学講座を代表して大西紘二



礼辞を奉読する遠藤さん

講師、学生を代表して小林大記さんが順番に哀悼の意を表し、続いて参列者一人ひとりが霊前にて焼香を行いました。

最後に、笠井医学部長から参加者に対して謝辞が述べられ、式は滞りなく終了し、参列者は学生が見送る中で帰路につかれました。

愛知医科大学不老会会員の集い開催

令和8年5月11日（月）午前10時30分から、愛知医科大学不老会会員の集いが覚王山日泰寺普門閣において開催されました。当日は晴天に恵まれ、不老会役員、本学部会役員、一般会員及び医学部2学年次生から116名が出席し、会場内は多くの参加者で盛況となりました。

会員の集いは、成願された方々への黙とうで始まり、笠井謙次医学部長、公益財団法人不老会の浅井直樹常務理事からごあいさつをいただきました。

続いて、学生代表の谷口茉詩さんから、「皆さまへの感謝の気持ちを胸に、日々学習に励みます。将来は、患者さん一人ひとりに寄り添い、最善の医療を提供できる医師となれるよう、努めて参ります」と感謝の想いを込めた体験発表がありました。

次に、講演発表として、救急集中治療医学講座の渡邊栄三教授から「敗血症を乗り越え、自分らしい人生を取り戻す－早期発見とPICS（集中治療後症



会場の様子

候群）への備え－」と題した講演があり、解剖学講座の内藤宗和教授から献体の現状についての報告が行われました。

また、不老会会員と学生との昼食懇談会も実施され、「学生と直接話せて良かった」と会員の方にも喜んでいただくなど、有意義な交流の時間となりました。

令和8年度臨床実習後OSCE実施

令和8年7月11日（土）に医学部6学年次生を対象とした臨床実習後OSCEが実施されました。この試験は、医学生が診療参加型臨床実習において十分な臨床能力を修得できているか、つまり臨床研修を開始して良いかどうかを評価する試験です。本学では、共用試験実施評価機構の課題（機構課題）3題と各大学独自の課題3題が出題されました。

今回の臨床実習後OSCEにおける学生のパフォーマンスを通じ、今後の臨床実習の充実に活かしていただけることと思います。また、模擬患者さんをはじめ、多くの職員の方々に運営スタッフとして携わっていただきました。（評価者69名、模擬患者さん58名、運営スタッフ32名）改めて皆さまのご協力に感謝致します。

国際交流



タイ王国タマサート大学チュラポーン国際医学部教員来学 ～更なる国際交流の進展と充実を目指して～

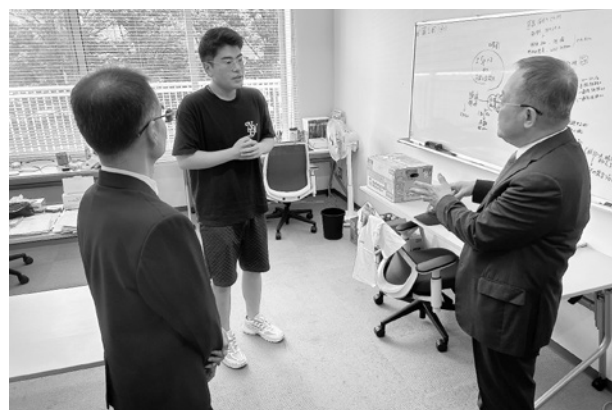
本学医学部は、令和5年度にタイ王国タマサート大学チュラポーン国際医学部（Chulabhorn International College of Medicine Thammasat University）と学術国際交流協定を締結し、学生等の相互派遣・受け入れを行っており、本学の学生は同大学チュラポーン国際医学部において4週間の臨床実習に参加しています。

この度、令和8年7月31日（金）に、タマサート大学チュラポーン国際医学部からPeerapong Kitipawong 先生（Assistant Professor, Dean）、Piyaporn Surinlert 先生（Assistant Professor, Assistant Dean for Student Affairs）及び Teva Phanaksri 先生（Assistant Professor, Course Coordinator for the Elective Program）の3名が来学し、本学の視察や学生・教員との交流が行われました。

当日は、伊藤恭彦学長及び都築豊徳国際交流センター長への表敬訪問、医学部学術国際交流委員との昼食懇談会が行われ、今後の交流促進に向けて意見を交わしました。また、学内施設を見学し、本学への理解を深めていただくとともに、両大学の間で教育や医療技術等について意見交換を行う貴重な機会となりました。更に、本学で臨床実習中のタマサート大学チュラポーン国際医学部3学年次生2名との



表敬訪問時の意見交換



学生による医心館の説明

面談も行い、本学での実習や生活について意見を交わしました。

今後も国際交流事業の更なる充実を図り、本学の教員及び学生が多様な文化や価値観に触れる機会を拡大するための取り組みを積極的に進めて参ります。

シンガポール共和国シンガポール国立大学短期留学生来学

令和8年7月13日（月）から5日間の日程で、シンガポール国立大学（NUS：National University of Singapore）の看護学生6名が来学しました。今回のプログラムでは、本院、国立長寿医療研究センター、有限会社ハートフルハウスの高齢者施設及び介助犬総合訓練施設「シンシアの丘」といった施設見学のほか、本学3学年次生の前期科目「クリティカルケア論」の演習に参加し、本学の学生とNUSの学生と一緒に学ぶ機会が設けられました。初めは、お互い緊張する場面もありましたが、同じ看護学生として協力し、事例についてディスカッションを行うなど、有意義な機会となりました。

また、学生ボランティア「愛Kind」を通じて、プログラム後に名古屋市内を案内するなど多くの学生が国際交流に参加しました。両国における医療の相違や学生生活、文化の違いなどを楽しく英語で会話する姿があり、再会を約束するなど、国際交流への関心が高まるきっかけとなりました。



クリティカルケア論演習の様子
(中央にNUS学生を囲んで)



クロージングセレモニー後の記念撮影
(看護学部長、NUS学生、本学学生とともに)

熱中症予防講演会開催

令和8年6月16日（火）午後5時40分から大学本館たちばなホールにおいて、課外活動を行う医学部及び看護学部の学生を対象として「熱中症予防講演会」が開催され、両学部生合わせて481名の参加がありました。

本講演会は、6月中旬から全国的に厳しい暑さが到来し、真夏日・猛暑日が各地で記録されている状況で、8月上旬から開催される西日本医科学学生総合体育大会に向け練習量が多くなることや、夏季休業期間中の練習時間帯が夜から日中に移行するなど、7月から8月にかけては熱中症に注意する必要があることから、熱中症予防の重要性について再認識してもらうことを目的に開催されています。

講演会では、救命救急科の寺島嗣明講師から、①熱中症は死に直結する疾患、②「熱中症診療ガイドライン2024」において深部体温の測定による評価と治療が明確化されたこと、③熱中症の予防の要、④冷却環境の事前準備などについて講演していただきました。



講演会の様子

講演会終了後に確認テストを実施し、参加した学生からは、「熱中症予防のために、どのような準備をするべきか、実際に起きたとき、どのような対応を取るべきかを学ぶことができた」、「熱中症だからと軽く見ずに、早期発見の後、適切な対処が必要であると分かった」、「熱中症の対策を心掛けると同時に後輩や他のメンバーにも注意を払いたいと思った」などの感想がありました。

令和8年度看護学部キャンドルセレモニー挙行

令和8年6月13日（土）午前10時から大学本館たちばなホールにおいて、看護学部2学年次生を対象とした令和8年度キャンドルセレモニーが本学関係者及び保護者も招待の上、挙行されました。

本学のキャンドルセレモニーは、ナイチンゲールの精神を受け継ぎ、看護職者となるための決意を新たに誓いの場として、2学年次生の実行委員会を中心となって企画し、学生たちが協力して運営しているものです。

始めに、伊藤恭彦学長から式辞が述べられ、続いて、若杉里実看護学部長、萬谷和代看護部長からメッセージが贈られました。その後、学生代表12名がナイチンゲール像の灯火を燭台に受け継ぎ、「私の目指す看護師像」を発表した後、一斉に全ての学生へ灯火を引き継ぎました。最後に、学生代表2名が壇上に上がり、「誓いの言葉」を述べ、厳粛な雰囲気の中、キャンドルセレモニーを終了しました。

この式典を通じて、これから本格的に始まる看護学の修得に一層力を注ぎ、高度な知識・技術を兼ね備えた心豊かな看護職者へと成長していくことを心



式辞を述べる伊藤学長



キャンドルセレモニーの様子

から願っています。

令和8年度長久手市内保育園現職保育士研修（小児救急）開催

令和8年7月15日（水）午後5時から看護学部棟の実習室において、令和8年度長久手市内保育園現職保育士研修「子どもを守るためにどうしますか？～保育現場で役立つ子どもの救急対応～」が開催され、長久手市内で働く保育士、学童保育指導員、子育て支援員、看護師など約50名が参加しました。

研修前半は、小児看護学領域の深谷基裕准教授が、子どもの体の特徴、熱中症の特徴と対応、外傷の初期対応と受診するサインについて講義を行いました。後半は茂本咲子教授と坂川有希助教が演習に加わり、三角巾を用いた頭部の圧迫包帯止血法と骨折した腕の固定法の実技演習が行われました。

参加者からは、『『眠い』、『疲れた』という言葉が熱中症のサインかもしれないと知り、子どものサインを見逃さないようにしたい』、『いざという時、冷静に対処できるように三角巾の使い方について復習したいと思う』、『子どものケガの処置は役割分担をして、複数名で実施することが大切だと感じた』とい



三角巾を用いた固定法のデモンストレーションを行う深谷准教授と坂川助教

う感想が寄せられました。

本研修会は、保育現場で日頃感じている困りごとについて事前に意見を伺うことで実施されました。今後も地域のニーズに即した支援活動を行って参ります。

令和8年度高校教員対象看護学部説明会開催

令和8年7月24日（金）午後2時から看護学部棟N203講義室において、高校教員対象看護学部説明会が開催されました。本説明会は、高校教員に対して本学部の教育内容や入試制度に関する最新情報を提供し、理解を深めていただくことを目的としています。当日は、県内外の高等学校から、学年担任や進路指導担当の先生方にご参加いただきました。

始めに、広報委員会委員長の山中真教授（看護管理学）からあいさつがあり、事務局から令和9年度入学者選抜の概要について説明が行われた後、山中教授から看護学部の教育内容や特色、学生生活等について紹介されました。

説明後の質疑応答では、テーブル毎に入学者選抜や学生生活に関する質問があり、日頃の進路指導や大学入試について意見交換が行われました。

その後、希望者を対象に実習室やシミュレーションセンター等の施設見学が行われ、本学部の教育環境を直接ご覧いただきました。また、個別相談では、各高等学校の状況に応じた情報提供や相談対応が行われました。

参加者からは、「看護学部、医学部、大学病院が



山中教授による説明会の様子



施設見学で説明する深谷基裕准教授（一番右）

一体となった強みを、1学年次からの教育に活かしている点が素晴らしいと感じた」などの意見があり、本学部と高等学校との連携を深め、受験生の本学への関心を喚起し、進路選択の一助となる機会となりました。

看護師国家試験対策講座実施

看護学部では、父母会のご支援をいただきながら、低学年次から段階的に国家試験対策に取り組んでいます。令和8年4月から7月にかけて、国家試験対策の一環として看護師国家試験対策講座が実施されました。本講座では、東京アカデミーから講師をお招きし、テキストを用いながら、対面形式での講義が行われました。

講義では、国家試験の出題傾向や重要事項についての解説に加え、これまでの学習内容を振り返りな

がら、問題演習を通して知識の定着が図られました。学生たちは、問題に取り組む中で、自身の理解度を確認するとともに、今後重点的に学習すべき内容についても考える機会となりました。また、実際の国家試験を意識した学習に取り組むことで、試験に向けた学習習慣を身につけるきっかけにもなりました。

今後も継続的な学習を通して、看護師国家試験合格に向けて力を伸ばしていくことが期待されます。

看護学部キャリア支援講座（履歴書書き方講座）実施

令和8年7月21日（火）午後1時からC棟C202講義室において、3学年次生を対象とする「看護学部キャリア支援講座－履歴書書き方講座①－」が実施されました。【写真】

本講座は、看護学部生に対する就職支援の一環として実施し、履歴書の書き方の基礎を学ぶことを目的としています。当日は、株式会社マイナビからキャリアサポート担当職員を講師にお招きしました。始めに、学生委員会委員長の篠田かおる教授（基礎看護学）から、「近年、就職活動の開始時期が年々早まっており、就職活動を取り巻く環境も厳しくなっています。本講座を通じて、履歴書の書き方をしっかりと学び、今後の就職活動に役立ててください」とのあいさつがありました。続いて、マイナビ講師から近年の就職活動の状況、履歴書の役割や基本項目の書き方、自己PRと志望動機の考え方などについて説明がありました。



講座終了後に実施したアンケートでは、「自分の強みについて考えることが大切だと感じた。また、興味のある病院だけではなく、様々な病院を見て比較することが大切だと学んだ」、「将来の選択肢を広げるためにも病院見学や説明会に積極的に参加したい」などの感想がありました。

これから就職活動を始める学生にとって、履歴書の書き方の基礎を学ぶとともに、自身の強みや将来の進路について考える良い機会となりました。

国家試験日程のお知らせ

◆第121回医師国家試験

- ・試験日 令和9年2月6日（土）・7日（日）
- ・合格発表 令和9年3月16日（火）

◆第113回保健師国家試験

- ・試験日 令和9年2月12日（金）
- ・合格発表 令和9年3月24日（水）

◆第116回看護師国家試験

- ・試験日 令和9年2月14日（日）
- ・合格発表 令和9年3月24日（水）

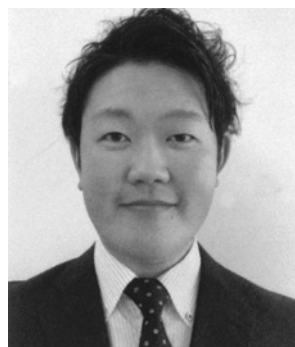
大学院医学研究科学生表彰(優秀論文賞)

大学院医学研究科では、学生の研究活動の活性化を図るため、学生が顕著な業績を挙げた場合等の表彰制度を設けています。

この度、令和7年度に修了した大学院生のうち、各研究指導教授から学位論文の推薦があった者について選考を行った結果、歯科口腔外科学講座の古橋明文教授から推薦された岩田侑真氏（臨床医学系口腔外科学専攻）及び解剖学講座の内藤宗和教授から推薦された石川拓郎氏（基礎医学系解剖学専攻）の2名が「優秀論文賞」として表彰されることとなりました。

岩田氏は、間葉系幹細胞（MSCs）は再生医療に有望な細胞源であるが、移植後の生着率が低い点を臨床応用への課題と考え、大学院における4年間、大変意欲的に研究活動に取り組みました。

ヒト臍帯由来MSCsのスフェロイド培養が、PI3K/Akt経路及びHIF-1 α を介したシグナル伝達を背景としてアポトーシス関連遺伝子の精緻な調節をもたらし、アノキス抵抗性獲得による細胞の生存性向上に関与することを明らかにしました。これは再生医療における幹細胞治療の最適化に繋がる重要な知見



表彰学生（左から岩田氏及び石川氏）

を示すものであり、非常に評価の高い雑誌に掲載されました。

石川氏は、非小細胞肺癌に対する既存薬アトルバスタチンの新たな抗腫瘍作用を、YAP/TAZ活性の抑制という分子機序から明らかにしました。

特に、間葉系様形質を有する癌細胞に選択的に増殖・遊走・浸潤抑制効果を示す点は、癌の悪性化機構の理解と治療標的探索の両面で重要であり、安全性が確立された既存薬のドラッグ・リポジショニングに繋がる可能性も高く、基礎的意義と臨床応用性を兼ね備えた極めて価値のある論文として、非常に評価の高い雑誌に掲載されました。

今後も、表彰される学生が続くことを期待します。

看護学研究科特別講義開催

令和8年7月25日（土）午後1時から看護学部棟N201講義室において、大阪大学医学部保健学科招へい教員の諏訪敏幸先生を講師にお招きし、「看護研究のための系統的文献検索」というタイトルで看護学研究科特別講義が開催されました。当日は、看護学研究科の修士課程及び博士後期課程の大学院生と教員のほか、学外からの参加者も多く、講義室を埋め尽くすほど盛況な講義となりました。

諏訪先生からは、研究とは情報の消費者から情報

の生産者になることであり、生産者は提供するものに責任をもつために先行研究調査が必要であると、文献検討の重要性を教えてくださいました。また、シソーラスの調べ方、検索語の選択、and / orを使用する場合の注意事項などについて具体的な説明があり、会場からの質問にも真摯にご回答いただきました。

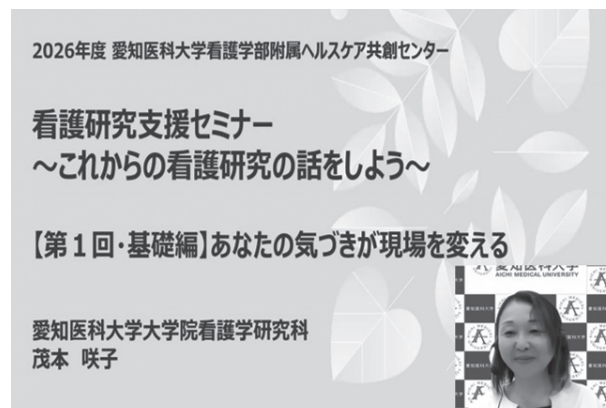
今回の講義は、文献検討に早速取り組みたいとなるような有意義な機会となりました。

ヘルスケア共創センター生涯学修支援部門 看護研究支援セミナー開催

【第1回】基礎編：あなたの気づきが現場を変える

令和8年6月27日（土）午後1時から、看護学研究科の茂本咲子教授（小児看護学）による看護研究支援セミナー基礎編「あなたの気づきが現場を変える」がオンライン形式で開催【写真】され、18名の参加がありました。

基礎編の講義では、茂本教授から、研究課題の明確化は実践の中での疑問や気づきを疑問形で書き出し、第三者にも分かるように言語化することから始められること、文献検索の方法と文献の読み方、研究倫理についてのお話がありました。参加者からは、「研究事例を交えた解説であったため理解しやすかった」、「研究課題の着眼点や、文献検索の手法の詳細な講義があり、今後使いこなせるようにしたい」等の感想がありました。



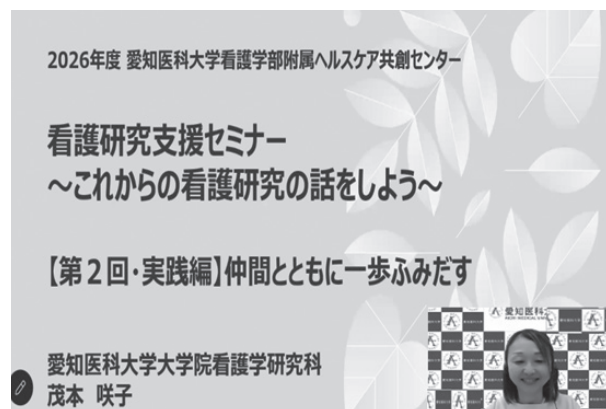
講義後、例年好評の「放課後タイム」を行い、参加者が講師に個別のテーマについて質問できる時間が設けられました。参加者からは、「自分の疑問以外に他の参加者の疑問を聞くことができたため参考になった」、「気軽に質問できる雰囲気良かった」等の感想がありました。

【第2回】実践編：仲間とともに一歩ふみだす

令和8年7月18日（土）午後1時から、看護学研究科茂本咲子教授（小児看護学）による看護研究支援セミナー実践編「仲間とともに一歩ふみだす」がオンライン形式で開催【写真】され、基礎編に続き、16名の参加がありました。

実践編の講義では、茂本教授から、インタビュー調査やアンケート調査の方法とコツ、学会発表や論文投稿の実践についてのお話がありました。更に、臨床看護師と大学教員がチームで取り組んだ看護研究実践例が紹介され、参加者からは、「実践編ならではの実際に研究を進めるに当たって疑問が生じる部分について説明があり、分かりやすかった」等の感想がありました。

基礎編同様、講義後の「放課後タイム」では、講



師とともに看護研究に取り組んだ参加者から、「当時の取り組みやチームで取り組んだことで看護研究へのモチベーションが高まったこと」等について発言があり、有意義な交流となりました。テーマである「仲間とともに一歩ふみだす」きっかけとなるセミナーでした。

大学病院の中央診療部に新たな部門設置

総診・内科救急センター

令和8年5月1日（金）付けで、「総診・内科救急センター」が新設されました。本センターは、高齢化の進展に伴う医療ニーズの変化に対応し、総合的な診療体制の充実と地域医療を支える人材育成の推進を目的としています。

本院は、平成8年に愛知県初となる高度救命救急センターの指定を受け、ドクターヘリの運航や愛知県重症外傷センター（試行病院）の指定などを通じて、地域の救命救急医療を担ってきました。

一方、高齢化の進展に伴い、内科系疾患や複数の

総診・内科救急センター・部長 津田 雅庸

疾患を併せ持つ高齢救急患者が増加しており、従来の臓器別専門診療だけでは対応が難しい場面も増えています。本センターでは、全身を総合的に診療し、一次・二次救急から入院診療まで切れ目なく対応するとともに、地域医療を支える「総合医」の育成にも積極的に取り組みます。

今後も診療機能の充実と教育体制の強化を図り、地域に求められる質の高い医療の提供と、持続可能な地域医療を支える人材の育成に取り組んで参ります。

宇良関による入院患者慰問及び病院長への表敬訪問

令和8年6月27日（土）午前10時に、大相撲の宇良関が入院患者の慰問と病院長への表敬訪問のため来院されました。木瀬部屋所属の幕内力士である宇良関は、今回、名古屋場所の開催に合わせてお越しいただくこととなりました。

当日は、小児病棟の協力の下、8A病棟のプレイルームにおいて、子どもたちやご家族とのトークイベントが行われ、宇良関から子どもたち一人ひとりにプレゼントが手渡されました。また、14A病棟の平松礼二ギャラリー前では、大相撲ファンの入院患者さんとの交流会が行われました。

交流会終了後には、羽生田正行理事長、天野哲也病院長及び岩船徹雄法人本部長への表敬訪問が病院



記念撮影
(左から羽生田理事長、宇良関、天野病院長、岩船法人本部長)

長室において行われ、宇良関から名古屋場所への意気込みが語られました。宇良関と患者さんは終始笑顔で楽しいひとときを過ごされました。

愛Crewスタートから5周年を迎えて

本院では、医学生・看護学生を活用した夜間看護補助体制（愛Crew事業）を令和3年7月に導入し、今年で5周年を迎えました。この事業の目的は、①夜間の看護業務の負担軽減、②夜間の入院患者に良質な療養環境の提供、③将来の医療人の育成の三つです。

愛Crewという名称は、看護部内で公募し「愛知医科大学病院で働く仲間（クルー）」という意味で名付けられました。導入当初は看護学生104名でスタートしたものの、コロナ禍で患者さんと接することができず、消毒、清掃、ナースステーション内の整理整頓、物品補充が主な業務で手持ち無沙汰な状況が続きました。

今では200名体制となり、周辺業務だけでなく体位変換、オムツ交換、食事補助、バイタル測定などの直接業務を看護師とペアになって行っています。患者さんからも好評で「元気をもらった」、「笑顔に救われる」、「看護師でなくても良いことを頼める」



愛Crewの皆さん

という声を多数いただいています。また、患者さんだけではなく、学生は学びにつながり、看護師は負担軽減になり、まさに三方良しの事業です。

現在、愛Crewは看護チームの一員として病院にとってなくてはならない存在であり、これからも日々進化して参ります。また、愛crew事業は、昨年8月からメディカルセンターでもスタートしています。

愛知医大サービス株式会社トピックス 愛知学校法人事業会社懇和会前期定例会の本学開催

愛知医大サービス株式会社では、令和8年7月3日（金）の厳しい暑さが続く中、愛知医科大学において愛知学校法人事業会社懇和会の前期定例会を開催致しました。当日は、施設の見学及び立石プラザでの全体会議を実施し、最後はレストラン「オレンジ」にて懇親会が行われました。

施設見学では、参加者の皆さまが格納庫にてドクターヘリの見学と説明を受け、大変興味深く耳を傾けていました。続く全体会議では、各事業会社が抱える課題や悩みについて共有し、活発な意見交換が行われました。レストラン「オレンジ」での懇親会では、美味しい料理を囲みながら交流が深まり、終始和やかな雰囲気の中で親睦を図ることができました。

本会は、愛知県内の私立大学における事業会社間



立石プラザでの全体会議の様子

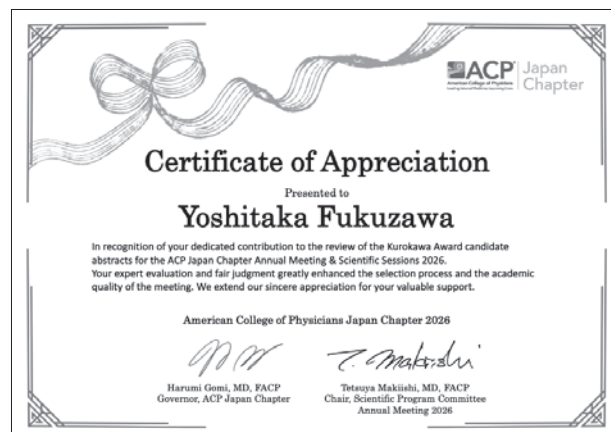
の情報交換等を目的として、令和4年に発足したものです。今年度は、愛知医科大学の事業会社である愛知医大サービス株式会社が幹事会社を務めました。12月の後期定例会に向けて、引き続き有意義な交流の場となるよう努めて参ります。

福澤 嘉孝名誉教授 一般社団法人米国内科学会日本支部事務局から感謝状授与

令和8年5月12日（火）に福澤嘉孝名誉教授が、一般社団法人米国内科学会（ACP: American College of Physicians）日本支部事務局から感謝状【写真】を授与されました。

本件は、令和8年6月に開催のACP日本支部年次総会・講演会2026での黒川賞候補演題審査において、福澤名誉教授が専門的な見識に基づき献身的に尽力したことにより極めて充実した審査が行われたことに対する感謝の意が表されたものとなります。

感謝状の授与を受け、福澤名誉教授からは「このたびACP日本支部から感謝状を賜り、大変光栄に存じます。黒川賞候補演題審査を通じ、次世代を担う若手医師・研究者の高い志と優れた成果に接することができ、深い感銘を受けました。長年にわたり愛知医科大学で培わせていただいた学識と経験を学



術振興に還元できましたことに感謝申し上げます。今後も後進育成と医学の発展に微力ながら尽力して参ります」との感想がありました。

参照URL

(<https://plaza.umin.ac.jp/acp2026/outline.html>)

施設管財室施設課 吉川 実希主任 一級建築士免許取得

施設管財室施設課の吉川実希主任が、一級建築士の免許を取得しました。国土交通大臣の免許を受けた一級建築士は、その名称を用いて全ての構造・規模・用途の建築物に関し、設計、工事監理や工事契約に関する事務、工事の指導監督、建築物に関する調査・鑑定、建築関係法令の手続き代理の業務を行うことができます。免許取得には、建築の実務経験が一定年数以上必要であり、学科試験及び設計製図試験が行われます。

このたび免許を取得された吉川主任からは、「本学が所有する建物は用途・規模から専門性が高く、一級建築士が携わる施設管理が必要です。所属長も同資格を所有しており、私も次世代の担い手として



免許を取得し業務に取り組む吉川主任（一番左）

資格取得を目指しました。安全で快適な施設の環境づくりを継承していきたいと考えています」との感想がありました。

看護部事務室 柚原 尚子副部長 メディカルセンター看護部 大高 通代看護師長 令和8年度愛知県看護功労者表彰受賞

本院看護部事務室の柚原尚子副部長及びメディカルセンター看護部の大高通代看護師長が令和8年度愛知県看護功労者表彰を受賞しました。

これは、看護職員として長年業務に従事し、顕著な功績のあった者に授与される賞であり、令和8年5月11日（月）愛知県産業労働センター（ウインクあいち）において開催された令和8年度愛知県看護大会の席上で表彰式が行われました。

表彰を受けた柚原副部長からは、「この度は、名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。この賞は、これまでご指導、ご支援を賜りました皆さまのお陰と、心より感謝申し上げます。今後も、看護業務の効率化や負担軽減に取り組み、看護職員一人ひとりが安心していきいきと働ける職場環境づくりに努め、より良い看護の提供に貢献して参ります」との感想がありました。また、大高看護師長からは、「この度は、過分な賞を頂戴致しましたこと、大変光栄に思っております。これも一緒に従事してきた皆さまのご協力及びご指導のおかげと感謝しております。今後も看護の発展に微力ながら尽力し、なお一層精進していく所存でございます」との感想がありました。



柚原副部長



大高看護師長

優良自動車運転者表彰

模範的な運転を行い、交通の安全確保に貢献している方に対し、愛知警察署、交通安全協会及び愛知安全運転管理協議会から毎年「優良自動車運転者表彰」が行われています。

今年は、令和8年6月4日（木）に総務部の大西功部長【写真】が表彰を受けました。この表彰は、運転士の交通安全に配慮するとともに、自らも安全運転を心掛け、長年無事故・無違反を続けていることが評価されたものです。

大西部長からは、「この度は、このように表彰いただき大変光栄に存じます。自動車だけではなく自動二輪車も運転しますので、今後も交通ルールやマナーに従い、譲り合いの精神で安全運転に心掛け、



努めていきたいと思っております」との感想がありました。

学 術 振 興

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



片野 拓馬

学位授与番号 乙445号

学位授与年月日 令和8年5月14日

論文題目：「Turbidity of whole lung lavage fluid in patients with

autoimmune pulmonary alveolar proteinosis : Association between turbidity and pulmonary function (自己免疫性肺胞蛋白症患者における全肺洗浄液の濁度：濁度と肺機能の関連)」



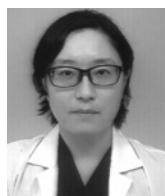
藤本 匡伸

学位授与番号 乙447号

学位授与年月日 令和8年7月9日

論文題目：「Triglyceride deposit cardiomyovascularopathy as a

predictor of vascular failure after coronary intervention in patients with hemodialysis : a preliminary analysis (血液透析患者における中性脂肪蓄積心血管症と冠動脈ステント治療後血管不全との関連)」



北野 礼奈

学位授与番号 乙446号

学位授与年月日 令和8年7月9日

論文題目：「Safety and Efficacy of Endoscopic Retrograde

Cholangiopancreatography in Patients with Performance Status 4 (PS4患者における内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (ERCP) の安全性と有効性)」

令和8年度科学研究費助成事業申請状況

研究種目	申請件数 (件)	申請金額 (千円)
研究活動スタート支援	3	3,644
合 計	3	3,644

※令和8年7月31日時点での数字を掲載。

※申請金額は令和8年度の申請額。

令和8年度科学研究費助成事業交付決定 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)

令和8年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）が採択され、次のとおり交付決定がありました。

（金額単位：千円）

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
挑戦的研究（開拓）	丸山健太 医学部 薬理学講座、教授	5,000 (継続)	1,500	腸管内RNAによる大腸癌進展調節機構の解明と応用
基盤研究（B）	曽根淳 客員研究員	2,800 (継続)	840	神経核内封入体病の病態解明と根本的治療法の開発
〃	林櫻松 医学部 公衆衛生学講座、教授（特任）	700 (継続)	210	血液プロテオーム解析による膵がん早期発見のためのバイオマーカーの探索・同定
〃	高木秀和 医学部 感染・免疫学講座、准教授（特任）	3,300 (継続)	990	なぜ特定の地域だけに人獣共通感染マラリアの再興が起こるのか
〃	岡田洋平 加齢医科学研究所 神経IPS細胞研究部門、教授	7,400 (継続)	2,220	運動ニューロン疾患における骨格筋由来分子による神経変性機構の解明
基盤研究（C）	仙石昌也 アドミッションセンター 教授	700 (継続)	210	作成プロセスから見たレポートライティング教育の評価手法に関する研究
〃	河合聖子 医学教育センター 准教授	700 (継続)	210	医学教育における新たな学修支援体制の確立を目指した探索的探究
〃	柿崎真沙子 医学部 衛生学講座、准教授（特任）	450 (継続)	135	初年次多職種連携教育の評価によるアンプロフessionナル行動の予測
〃	緒方良至 客員研究員	1,400 (継続)	420	ストロンチウム収着剤を用いた環境水中の放射性ストロンチウム迅速分析法の開発
〃	兵頭寿典 医学部 生物学、准教授（特任）	1,300 (継続)	390	高効率・高精度を両立した新規ゲノム編集法TPN法の更なる効率向上を目指す特性解析
〃	都築豊徳 医学部 病理診断学講座、教授	400 (継続)	120	前立腺導管内癌における、導管内及び浸潤癌細胞の空間的トランスクリプトーム解析
〃	鈴木進 研究創出支援センター 教授（特任）	1,200 (継続)	360	がん局所におけるTreg免疫抑制機序に基づく新たなTreg標的がん免疫療法の開発
〃	宮田淳 医学部 精神科学講座、教授	1,000 (継続)	300	MRIと脳波による統合失調症とてんかん性精神病の皮質病態・E/Iバランスの解明
〃	藤井公人 医学部 外科学講座（乳腺・内分泌外科）、教授（特任）	1,200 (継続)	360	乳癌組織の電気特性の解明と、それを予備知識としたマイクロ波画像化技術の確立
〃	倉橋宏和 医学部 小児科学講座、講師	900 (継続)	270	MYRF遺伝子による可逆性大脳白質障害と発熱時異常言動の病態解明
〃	竹下覚 大学病院 周産期母子医療センター、講師	1,000 (継続)	300	SGA児の大脳皮質構造異常とトロンボポエチンによる神経予後改善を目指した治療戦略
〃	神農英雄 大学病院 周産期母子医療センター、講師	1,500 (継続)	450	ヒト新生児脳がもつオリゴデンドロサイト産生システムの解明と傷害後の白質再生実現化

研究種目	研究代表者	直接 経費	間接 経費	研 究 課 題
基盤研究 (C)	中村正直 医学部 内科学講座 (消化管内科)、教授	400 (継続)	120	潰瘍性大腸炎の粘膜炎症制御における神経伝達物質としてのソマトスタチンの役割
〃	高村祥子 医学部 感染・免疫学講座、教授	1,100 (継続)	330	劇症肝炎を制御するTLR4賦活化機構の解明
〃	安藤博彦 医学部 内科学講座 (循環器内科)、教授 (特任)	1,000 (継続)	300	若年性心筋梗塞の一次予防策確立に向けた実装研究
〃	石本卓嗣 医学部 内科学講座 (腎臓・リウマチ膠原病内科)、教授	1,100 (継続)	330	腎疾患におけるlncRNAの役割の解明と新規治療法の開発
〃	伊藤恭彦 学長	800 (継続)	240	内皮細胞Glycocalyx特にヒアルロン酸に着目した腎疾患の病態解明と臨床応用
〃	高見昭良 医学部 内科学講座 (血液内科)、教授	1,200 (継続)	360	NKG2D 3'UTR miR-1245結合領域遺伝子改変高活性型NK細胞の作製と応用
〃	神谷英紀 医学部 内科学講座 (糖尿病内科)、教授	1,200 (継続)	360	糖尿病性多発神経障害におけるグルコース応答性ATP感受性Kチャネルの役割の解明
〃	永井尚子 分子医科学研究所 助教	1,300 (継続)	390	脳へのレプチン送達制御におけるヘパラン硫酸機能の解明
〃	中村二郎 名誉教授	1,600 (継続)	480	糖尿病・前糖尿病状態における腸管神経系障害が迷走神経活動と腸管糖新生に及ぼす影響
〃	野田貴幸 大学病院 薬剤部、薬剤師	1,000 (継続)	300	ヒト化マウスを用いたドナー特異的抗体産生核酸の同定・機能解明と診断治療への応用
〃	尾関直樹 医学部 外科学講座 (呼吸器外科)、准教授	500 (継続)	150	サルコペニア合併肺癌に関わる炎症・免疫制御機構の解析
〃	伊藤英治 大学病院 頭蓋底外科センター、准教授	700 (継続)	210	難治性髄膜腫におけるがん免疫微小環境の解明
〃	若尾典充 医学部 整形外科科学講座、教授 (特任)	1,100 (継続)	330	深層学習を用いた骨粗鬆症性椎体骨折診断および個別化治療プログラムの開発と検証
〃	寺嶋祐貴 医学部 疼痛医学講座、助教	700 (継続)	210	しびれ感の客観的評価としての新たな電気生理学的検査法に関する検討
〃	渡辺員支 医学部 産婦人科学講座、教授	1,400 (継続)	420	妊娠高血圧腎症妊婦における腎障害の病態解明と将来の慢性腎不全発症リスクの検討
〃	黒田佑次郎 医学部 衛生学講座、准教授	1,000 (継続)	300	認知症重症化予防を目指した多因子介入の有効性検証と社会実装
〃	菊地正悟 名誉教授	1,100 (継続)	330	便中抗原検査による中学生のピロリ菌検診一次検査の可能性
〃	橋本茜 看護学部 准教授	700 (継続)	210	ヒューマンケアリング理論を基盤とした救急看護師メンタルヘルスケアプログラムの開発
〃	山本恵美子 看護学部 教授	800 (継続)	240	介護安全に向けた多職種連携教育ーポジティブアプローチによる組織支援モデルの開発
〃	尾川貴洋 医学部 リハビリテーション医学講座、教授	700 (継続)	210	サルコペニア高齢患者の筋肉量変化とマイオカイン動態に関する研究
〃	榊原伊織 医学部 生理学講座、講師	1,000 (継続)	300	エピゲノムを介した運動誘導性の骨格筋ファイバータイプ制御機構の解明

研究種目	研究代表者	直接 経費	間接 経費	研 究 課 題
基盤研究 (C)	小松紘司 医学部 生理学講座、講師	400 (継続)	120	オレイン酸が卵母細胞のミトコンドリア機能に及ぼす影響とその作用メカニズムの解明
〃	稲垣秀晃 客員研究員	500 (継続)	150	難治性の痛みの心理的要因研究に必要な超音波発声を利用した動物実験モデルの確立
〃	小西裕之 医学部 生化学講座、教授 (特任)	1,700 (継続)	510	高性能な改良型CRISPR/Cas9ゲノム編集システムの確立と応用展開
〃	犬束歩 医学部 生理学講座、講師	1,000 (継続)	300	小脳の炎症応答におけるオキシトシンの機能解明
〃	木村元哉 大学病院 神経内科、助教 (医員助教)	1,000 (継続)	300	急性期Branch Atheromatous Disease患者のCYP2C19を踏まえた至適抗血小板療法の確立
〃	小林孝 分子医科学研究所 助教	1,300 (継続)	390	多能性幹細胞の分化制御におけるヘパラン硫酸の役割
〃	大橋明子 大学病院 病理診断科、講師	1,500 (継続)	450	エストロゲン依存・非依存乳癌における転写制御因子の解析
〃	大西紘二 医学部 病理学講座、講師	900 (継続)	270	がん患者のリンパ節マクロファージに着眼した新規バイオマーカーの探索
〃	熱田直樹 医学部 内科学講座 (神経内科)、教授	1,100 (継続)	330	孤発性筋萎縮性側索硬化症の臨床ゲノム多様性、iPS細胞表現型と神経病理像との関連
〃	増渕悟 医学部 生理学講座、教授	900 (継続)	270	ヒト睡眠覚醒リズムモデルとしての時計遺伝子に依存しないカフェインによるリズム
〃	奥村彰久 医学部 小児科学講座、教授	900 (継続)	270	リキッドバイオプシーを用いたけいれん重積型脳症の早期診断バイオマーカーの探索
〃	伊藤嘉規 医学部 小児科学講座、教授 (特任)	1,000 (継続)	300	ウイルス全ゲノム・miRNA解析による先天性サイトメガロウイルス感染症の包括的解析
〃	垣田博樹 大学病院 周産期母子医療センター、准教授	1,300 (継続)	390	低体温療法を応用したグリアの機能制御による新生児脳室周囲白質軟化症の新規治療法
〃	山田恭聖 大学病院 周産期母子医療センター、教授	1,200 (継続)	360	HPA axisの変容、グリア機能異常を介しての痛み、母子分離による新生児脳障害の解明
〃	伊藤理 医学部 内科学講座 (呼吸器・アレルギー内科)、教授	1,400 (継続)	420	難治性自己免疫性肺胞蛋白症の病態解明と治療法確立を目標とした研究基盤構築
〃	三輪祐子 医学部 腎疾患・移植免疫学寄附講座、助教	1,000 (継続)	300	腎移植における難治性BKV腎症の予防と治療に必要な免疫学的ミスマッチの解明
〃	中山享之 大学病院 輸血部、教授	500 (継続)	150	慢性DICの病態解明と適切な治療法開発：XIII因子とDOACに着目して
〃	花村一郎 医学部 内科学講座 (血液内科)、教授 (特任)	1,200 (継続)	360	プライム編集と化合物ライブラリーを利用したRAS変異骨髄腫に対する新規治療法の開発
〃	山口真 大学病院 腎臓・リウマチ膠原病内科、准教授 (特任)	800 (継続)	240	ANCA関連血管炎における血管内皮障害に着目した新規バイオマーカーの同定
〃	姫野龍仁 医学部 内科学講座 (糖尿病内科)、准教授	900 (継続)	270	糖尿病性多発神経障害におけるinsulin-Notch連関の異常と再生機構の破綻

研究種目	研究代表者	直接 経費	間接 経費	研 究 課 題
基盤研究 (C)	安次嶺聡 医学部 外科学講座(腎移植外科)、准教授(特任)	1,300 (継続)	390	ドナー由来ペプチドを同定し抗体関連型拒絶反応から移植腎を守る新戦略
〃	シバスندگانカルナン 医学部 生化学講座、講師	1,300 (継続)	390	NF2/p16INK4a欠失を伴う中皮腫に対する抗癌剤併用療法の開発
〃	大須賀浩二 看護学部 教授	1,200 (継続)	360	脊髄損傷後の歯髄幹細胞治療における活性化astrocyteでのapoptosisの発生機序の解明
〃	三木篤也 医学部 近視進行抑制寄附講座、教授(特任)	900 (継続)	270	リスク因子に着目した緑内障マイクロシャント手術の改良
〃	宮崎英隆 大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科、准教授(特任)	300 (継続)	90	超高倍率解像型毛細血管スコープを用いた非侵襲的診断法の確立と顎口腔領域への応用
〃	山中真 看護学部 教授	1,000 (継続)	300	看護師のデスクワーク時間と腰痛の実態調査ー長時間座位による姿勢変化と腰痛ー
〃	青山恵美 看護学部 准教授	700 (継続)	210	医療施設内での結核接触者健診対象者の適正範囲の解明～マルチレベル分析を用いて～
〃	山幡朗子 看護学部 准教授	500 (継続)	150	過敏性腸症候群患者の生活習慣改善を促す看護援助プログラムの開発と実装化の試み
〃	林文子 看護学部 講師	700 (継続)	210	出産恐怖感と分娩アウトカム(出産満足度・産後うつ病)の関連：前向きコホート研究
〃	山本弘江 看護学部 准教授	1,900 (継続)	570	父親の産後うつの様相の解明と家族支援方策の検討
〃	伊藤寿英 看護学部 講師	1,900 (継続)	570	訪問看護師における在宅療養者安全を高める地域支援システムの開発
〃	中楚友一郎 医学部 疼痛医学講座、特別研究助教	1,300	390	慢性一次性疼痛における非薬物療法の効果と生理学的基盤の解明
〃	山村彩 医学部 生理学講座、准教授	1,100	330	肺動脈性肺高血圧症の性差に関与する分子メカニズムの解明
〃	佐藤元彦 医学部 生理学講座、教授	1,300	390	G蛋白活性調節因子による転写調節機構の解析
〃	伊藤秀明 医学部 病理学講座、講師	1,300	390	膵臓癌における染色体倍加による浸潤能亢進と細胞外小胞依存性浸潤促進機構の解明
〃	高原大志 医学部 病理診断学講座、講師	2,800	840	肺腺癌の気道内進展を対象とした空間トランスクリプトーム解析
〃	内藤宗和 医学部 解剖学講座、教授	900	270	一酸化窒素を内包した超微細気泡による微小循環障害治療への挑戦
〃	陸雄一 加齢医科学研究所 講師	1,300	390	ヒト剖検脳を用いた神経変性疾患におけるタンパク質凝集メカニズムの解析
〃	中村亮一 医学部 内科学講座(神経内科)、准教授	1,500	450	ALSの臨床的多様性に影響する遺伝的修飾因子の探索同定
〃	河合三穂子 医学部 精神科学講座、准教授	2,100	630	てんかん患者におけるレベチラセタム関連精神症状の予測バイオマーカー探索

研究種目	研究代表者	直接 経費	間接 経費	研 究 課 題
基盤研究 (C)	成田晶子 医学部 放射線医学講座、講師	900	270	動静脈奇形に対する血管新生阻害薬溶出塞栓物質を用いた新たな治療法の開発
〃	下平政史 医学部 放射線医学講座、教授 (特任)	1,100	330	肺動静脈奇形に対する塞栓術：3次元血管内ナビゲーションを用いた新規治療戦略の開発
〃	荒井潤 医学部 内科学講座 (肝胆臓内科)、准教授 (特任)	1,100	330	B7-H6を標的としたMASHの病態進展を抑制する新規治療法開発
〃	山野泰彦 大学病院 呼吸器・アレルギー内科、准教授	1,100	330	間質性肺疾患における三次リンパ組織の非侵襲的推定法の開発
〃	小林孝彰 名誉教授	1,400	420	T細胞B細胞エピトープ解析を利用した腎移植後免疫抑制療法の最小化と新規制御法の開発
〃	畑山直之 医学部 解剖学講座、准教授	1,000	300	高圧生理活性ガスによるDCD臓器の新たなコンディショニング法の確立
〃	多々川貴一 大学病院 呼吸器外科、助教	1,200	360	ナノファイバー素材を活用した気管支断端瘻閉鎖法の確立
〃	渡邊栄三 医学部 救急集中治療医学講座、教授	1,300	390	敗血症性播種性血管内凝固 (DIC) に対する包括的抗補体治療戦略
〃	大石大 医学部 救急集中治療医学講座、助教	1,300	390	クローディンファミリーの網羅的解析による生体侵襲時の血管内皮細胞障害機構の解明
〃	高橋伸典 医学部 整形外科科学講座、教授	1,200	360	ヒアルロン酸レセプター CD44の断片化阻害による、関節軟骨変性抑制効果
〃	古川洋志 医学部 形成外科学講座、教授	1,400	420	ルシフェラーゼ発現マウスを用いた血管吻合不要型リンパ節移植の生着評価と機能解析
〃	中村律子 医学部 病理学講座、講師	1,000	300	超アクティブラーニングによる病理学実習の効果についての検証
〃	小林章雄 名誉教授	1,400	420	教職員のメンタルヘルスと仕事・職場要因についての縦断的研究
〃	川合紗世 医学部 公衆衛生学講座、講師	1,400	420	胃癌予防を目的とした若年者ピロリ菌感染対策の効果的な運用方法の検討
〃	宮原弘明 加齢医科学研究所 教授 (特任)	1,000	300	乳幼児の予期せぬ突然死の謎に挑む：多角的アプローチによる原因究明と予防への道
〃	長崎由紀子 看護学部 准教授	800	240	介護施設入所者の不利益となる救急搬送・救急外来受診を低減するための感染予防管理
〃	黒澤昌洋 看護学部 教授	500	150	高度実践看護師教育課程における教学IR学生調査票の開発と検証
〃	谷口千枝 看護学部 教授	700	210	急性冠症候群 (ACS) 患者の退院後の喫煙に関するtrajectoryの可視化に向けた研究
〃	佐々木裕子 看護学部 教授	1,600	480	認知症高齢者の災害関連死を防ぐ「認知症高齢者災害ケースマネジメントモデル」の構築
〃	坂本真理子 看護学部 特命教育教授	500	150	保健師の異文化間看護能力を育む事例集型教材 (ストーリーブック) の開発

研究種目	研究代表者	直接 経費	間接 経費	研 究 課 題
基盤研究 (C)	中村恵理 看護学部 助教	800	240	肥満を有するAMI患者の体重管理に関する研究
〃	森直治 大学病院 緩和ケアセンター、教授	1,200	360	GLIM基準を応用した悪液質診断基準(mGLIM)の妥当性と臨床的有用性の検証
〃	大久保友人 医学部 解剖学講座、助教	700	210	損傷肺の補強と再生を可能にする肺瘻閉鎖素材の確立－手術用補強材による肺の再生－
〃	池野正史 医学部 生物学、教授（特任）	1,400	420	好中球との相互作用を基盤としたヒト間葉系幹細胞の新規評価系の構築
若 手 研 究	川口礼雄 研究員	900 (継続)	270	慢性硬膜下血腫術後のアポトーシス活性化機序の解明と新規治療法の確立
〃	森一直 大学病院 NP部、看護師	200 (継続)	60	診療看護師（NP）と特定行為研修修了者の協働実践ケアモデルの構築
〃	福重香 医学部 解剖学講座、講師	1,400 (継続)	420	生理活性ガス含有ナノ気泡による効率的な再生医療用細胞の培養技術構築
〃	赤木明生 加齢医科学研究所 講師	700 (継続)	210	孤発性Creutzfeldt-Jakob病の異常プリオン蛋白の局在と動態の解明
〃	藤田貢平 医学部 精神科学講座、助教	600 (継続)	180	聴覚誘発電位を用いたECT治療の評価
〃	井上匡央 医学部 内科学講座（肝胆膵内科）、准教授	1,400 (継続)	420	膵癌に対する内視鏡的不可逆電気穿孔法を基軸とした新規低侵襲治療法の開発
〃	玉置優貴 医学部 解剖学講座、助教	1,000 (継続)	300	肝細胞移植後の生着と肝機能回復に関わる因子の解明：肝細胞移植の適応拡大を目指して
〃	苛原隆之 客員研究員	1,000 (継続)	300	重症患者に対する急性期栄養療法における有効な治療的介入の探索
〃	国村彩子 客員研究員	200 (継続)	60	体組成評価指標としてのアディポカイン、マイオカインと冠動脈疾患予防への応用
〃	篠壁多恵 医学部 公衆衛生学講座、講師	900 (継続)	270	食物繊維・脂肪酸摂取や遺伝子多型が腹部肥満に与える影響
〃	板津良 看護学部 講師	1,200 (継続)	360	ICUにおける薬剤耐性菌MRSA持込に関する危険因子の多施設研究と伝播予防策の構築
〃	竹内堂朗 医学部 解剖学講座、助教	1,800 (継続)	540	バイオ医薬品の生産性向上に向けたウルトラファインバブルの応用
〃	三岡裕貴 大学病院 血管外科、講師	200 (継続)	60	皮膚硬度に着目した乳がん治療関連リンパ浮腫の早期診断方法の開発
〃	内野かおり 医学部 内科学講座（血液内科）、講師	1,200 (継続)	360	造血細胞移植における白血球TLR－腸管免疫－腸内細菌叢ネットワークの解明
〃	鄭羽仲 加齢医科学研究所 神経IPS細胞研究部門、助手	1,800 (継続)	540	疾患特異的iPS細胞を用いた球脊髄性筋萎縮症の三次元ヒト疾患モデル構築と病態解明
〃	下田博美 医学部 内科学講座（糖尿病内科）、助教	700 (継続)	210	SGLT2阻害薬の臓器保護効果におけるGcg由来ペプチドとFoxQ1/FoxO1/DEPP1経路の役割

研究種目	研究代表者	直接 経費	間接 経費	研 究 課 題
若 手 研 究	西塔誠幸 大学病院 乳腺・内分泌外科、助教（医員助教）	1,100 （継続）	330	細胞外マトリックス成分の発現動態から見た甲状腺癌転移浸潤機構の解明
〃	大橋禎史 大学病院 整形外科、講師	1,200 （継続）	360	続発性変形性関節症への新規アプローチ－解糖系阻害剤は新規治療薬になり得るか？－
〃	後藤瑛一 医学部 解剖学講座、助教	1,500 （継続）	450	真菌性角膜炎に対する可溶性フィルム製剤の開発
〃	松尾友仁 医学部 法医学講座、講師	1,200 （継続）	360	効率的な抱合体加水分解による新規前処理法を用いた尿中薬毒物LC-MS/MS分析法の開発
〃	有馬隆紘 医学部 外科学講座（血管外科）、助教	100 （継続）	30	特定看護師による処置の安全性と治療効果の検討
〃	大塚俊 医学部 解剖学講座、講師	1,300 （継続）	390	深筋膜の肥厚過程とそのメカニズム解明による身体機能の評価指標の確立
〃	石田優利亜 大学病院 栄養部、管理栄養士	700 （継続）	210	GLIM基準における浮腫の影響と低栄養診断の包括的アプローチ
〃	永沢亮 医学部 感染・免疫学講座、助教	1,200	360	寒天培地における未培養微生物の培養化に向けた基盤的研究
〃	岡田浩章 大学病院 放射線科、講師	1,900	570	ニトログリセリン併用DE-CTによる喀血に対する塞栓術の安全性・有効性の向上
〃	沼本真吾 医学部 小児科学講座、助教	1,300	390	小児のてんかん重積状態の客観的診断を可能にする迅速脳波記録デバイスの開発研究
〃	鈴木頼快 大学病院 循環器内科、教授（特任）	1,500	450	AIによる心音・心電図の統合解析と心不全早期診断の創成
〃	浅井信博 医学部 臨床感染症学講座、准教授	1,300	390	HIVとRSウイルス相互作用解明に基づくマイクロバイオーム介入型治療戦略探索
〃	加藤誠 大学病院 糖尿病内科、助教	1,400	420	臍島移植成績向上に向けたヒト乳歯歯髄幹細胞併用療法の試み
〃	山梨裕貴 大学病院 整形外科、助教	700	210	自家培養軟骨移植術における新たな手術手技の確立に関する研究
〃	仲西菜月 医学部 産婦人科学講座、講師	300	90	不妊症における卵子－内膜クロストークの機序解明と治療標的探索
〃	高橋礼子 災害医療研究センター 講師	500	150	災害時における病院の人的継続性支援に関する制度設計と実装モデルの構築
〃	景山 斎 医学部 公衆衛生学講座、助教	2,400	720	血中SDF-4の膵がん早期診断マーカーとしての有用性評価：基礎解析と臨床・疫学的検証
〃	名仁澤英里 医学部 解剖学講座、助教	1,100	330	短期高脂肪食によるEPA/AA比低下に着目したMASH超早期病態の解明
研 究 活 動 スタート支援	松川哲也 医学部 産婦人科学講座、助教	1,000 （継続）	300	p53変異子宮体癌における免疫微小環境改変と抗CD47治療の可能性
〃	中村幸男 大学病院 骨粗鬆症・ロコモ・関節疾患センター、教授（特任）	1,300 （継続）	390	先天性橈尺骨癒合症の候補遺伝子および胎生致死候補遺伝子ZMAT2の機能解析

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研 究 課 題
研 究 活 動 スタート支援	山雄さやか 大学病院 眼科、講師	1,000 (継続)	300	偏光OCTによる網脈絡膜線維性病変の可視化 と新たな評価法の確立
〃	和田伊織 大学病院 眼科、助教	600 (継続)	180	視機能保全に向けたRPE機能マーカーの創出： 偏光OCTによる新規診断指標の開発
〃	上松東宏 医学部 総合診療医学講座、准教授（特任）	1,000 (継続)	300	診療所の外来で発生するインシデントによる影 響の分析とその分類法の開発

- ・令和8年7月1日時点の情報を掲載。
- ・研究種目及び課題番号順にて記載。
- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載。
- ・「交付申請書」及び「支払請求書」を基に作成。
- ・基金については、今年度請求額を記載。
- ・研究活動スタート支援（新規）は交付決定次第記載予定。

令和8年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構 委託研究開発契約の締結

令和8年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究課題が採択され、次のとおり研究契約を締結しました。

（金額単位：円）

研究事業名	研究開発担当者	委託研究開発費	研究開発課題名
脳神経科学統合プログラム	祖父江元 特命学長	104,000,000	孤発性筋萎縮性側索硬化症の病態介入治療標的の同定と創薬シーズ開発：大規模臨床ゲノム情報と患者由来iPS細胞／運動ニューロンの統合解析を介して
創薬基盤推進研究事業	祖父江元 特命学長	36,900,000	筋萎縮性側索硬化症の大規模患者レジストリと患者iPS細胞を活用した産学共同新規創薬開発研究（AMED拠出分）
創薬基盤推進研究事業	祖父江元 特命学長	22,000,000	筋萎縮性側索硬化症の大規模患者レジストリと患者iPS細胞を活用した産学共同新規創薬開発研究（企業拠出分）
医療機器等研究成果展開事業	大久保友人 医学部 解剖学、助教	26,000,000	安全性と簡便性を両立する肺瘻修復技術の革新：生体付着性ナノファイバーシートの開発

- ・令和8年4月1日から7月31日までの日本医療研究開発機構委託研究の代表課題を記載。
- ・委託研究開発費は、他機関への再委託費及び間接経費を含む。

令和8年度厚生労働科学研究費補助金交付決定

令和8年度厚生労働科学研究費・厚生労働行政推進調査事業費補助金が採択され、次のとおり交付決定がありました。

(金額単位：千円)

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
慢性の痛み政策研究事業	牛田享宏 医学部 疼痛医学講座、教授	7,700	2,300	痛覚変調性疼痛を有する慢性疼痛患者の心理社会的背景の分析と社会復帰・居場所づくりを推進する研究
難治性疾患政策研究事業	曾根淳 客員研究員	3,990	1,197	神経核内封入体病患者の診療ガイドライン作成に向けた実態調査および調査研究
難治性疾患政策研究事業	奥村彰久 医学部 小児科学講座、教授	3,871	1,160	早産児ビリルビン脳症の診療指針の改訂と包括的診療体制の構築
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	神谷英紀 医学部 内科学講座（糖尿病内科）、教授	3,850	1,150	糖尿病合併症の実態把握と評価・管理のための研究
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	西原真理 大学病院 疼痛緩和外科、教授（特任）	3,900	1,100	HPVワクチンのワクチン接種後に生じる種々の症状についての調査とその対応方法に関する研究

- ・令和8年7月1日時点の情報を掲載。
- ・課題番号順にて記載。
- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載。
- ・「交付申請書」を基に作成。

研究助成等採択者

◇公益財団法人三菱財団2026年度助成金

・氏 名 高橋礼子(災害医療研究センター・講師)

研究題目 福祉施設の尊厳を守る災害時意思決定支援：DH－Winsによる判定ロジックの開発と社会実装

助成金額 5,000,000円

◇公益信託第24回日本医学会総会記念医学振興基金2026年度研究助成金

・氏 名 垣田博樹（周産期母子医療センター・准教授）

研究題目 HPAaxisの変容、グリア機能異常を介した母子分離による新生児脳障害の解明

助成金額 1,000,000円

◇公益財団法人森永奉仕会研究奨励金

・氏 名 増田雄（小児科・助教）

研究題目 小児におけるビタミンA欠乏症の全国実態調査

助成金額 500,000円

・氏 名 速水智英（糖尿病内科・助教）

研究題目 腸管神経系と腸管糖新生が糖尿病の病態に及ぼす影響の解明

助成金額 1,000,000円

本学講座等の主催による学会等

【学会名】

- ・第40回日本Shock学会学術集会
- ・日本超音波医学会第99回学術集会
- ・第60回中部形成外科学会学術集会
- ・第167回日本循環器学会東海地方会

【開催日】

令和8年5月22日(金)・23日(土)
 令和8年5月29日(金)～31日(日)
 令和8年6月20日(土)
 令和8年6月20日(土)

【会長等】

渡邊 栄三
 古川まどか
 梅本 泰孝
 早稲田勝久

第40回日本Shock学会学術集会

救急集中治療医学講座・教授 渡邊 栄三

令和8年5月22日(金)・23日(土)の2日間にわたり、AP名古屋において、第40回日本Shock学会学術集会を開催しました。【写真】本学会は国際Shock連盟の一翼を担い、基礎研究者と臨床医がショックの病態生理に関する知見や成果を共有・討議し、患者さんの救命へ繋げることを目的としています。そこで今回は「Dynamic Interaction“基礎と臨床”」をテーマに掲げました。

当日は、138名もの参加を得ることができました。イブニングセミナーでは、本学感染・免疫学講座の高村祥子教授に、敗血症誘導の分子機構についてご講演いただきました。シンポジウム3本を筆頭に、計58演題の発表が行われました。また、海外招請講演では、アムステルダム大学のTom van der Poll教授及びW. Joost Wiersinga教授に、敗血症の精密医療及びマイクロバイオームについてのご講演いただきました。会長賞は、基礎、臨床研究部門で各々1題ずつ選出し、副賞と次回米国Shock学会での口演発表機会が贈られました。更に、一般演題を含め



計10題の英語発表も行われました。

近年、Shock研究は目覚ましい進歩をとげていますが、AIやビッグデータ、新規バイオマーカーの探索などの知見を現場へ橋渡しし、患者さんを救うためには基礎と臨床の連携が欠かせません。本集会はその重要性を再認識する有意義な場となりました。本学術集会の開催に当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援を賜りましたことに、厚く御礼申し上げます。

日本超音波医学会第99回学術集会

耳鼻咽喉科・頭頸部外科・客員教授 古川 まどか

令和8年5月29日(金)～31日(日)の3日間、東京国際フォーラム(東京都千代田区)において、日本超音波医学会第99回学術集会を開催致しました。また、開催後の6月10日(水)～7月31日(金)にかけては、オンデマンド配信が行われました。

超音波医学に関係する様々な領域を対象とし、特別講演数4企画数84、一般演題数402、参加登録者は8,500人を超え、全国から集まった多くの参加者が会場に溢れ、活発な質疑・討論が行われました。



集合写真
 (左からアジアセッション、ハンズオンセミナー)

頭頸部超音波アジアセッションでは、本学の藤本保志教授による司会の下、台湾や韓国から頭頸部超音波のエキスパートを講師にお招きしてご講演いただくとともに、各国の若手医師の交流を図るセッションにおいても活発な討論が行われました。また、最終日には市民公開講座や、100名を超える一般参加者を対象とした頭頸部超音波ハンズオンセミナーが開催され、頭頸部超音波研究会チームが一丸となり講師・インストラクターとして指導に当たり、大盛

況でした。

会場の東京国際フォーラムは交通の便も良く、爽やかな五月晴れと天候にも恵まれ、明るい陽射しが注ぎ込む会場がとても心地良く感じられる中、3日間の会期を盛況のまま無事終了することができました。本会の開催に当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

第60回中部形成外科学会学術集会

形成外科学講座・講師 梅本 泰孝

令和8年6月20日（土）名古屋市中区の電気文化会館5階イベントホールにおいて、第60回中部形成外科学会学術集会を開催致しました。中部地区全域から形成外科医が現地に集まり、学術交流の場として有意義な会となりました。

特別公演はリヴィウ国立医科大学のRomana Merza先生に、戦時下における広範囲熱傷・外傷診療に関してウクライナからリモートでお話いただきました。また、自治医科大学形成外科の素輪善弘教授には乳房再建におけるSDMについて、本院看護部30外来の島美樹看護師にはリンパ浮腫診療つい

て、ランドスケープデザイナーの長濱香代子代表には形成外科とランドスケープに共通する「美」と「回復」についてご講演いただきました。更に、各領域にわたる一般演題も39題の発表があり活発な討議が交わされ、形成外科診療を取り巻く課題と可能性を多角的に見つめ直す、意義深い学術集会となりました。

開催に当たり、ご参加、ご協力を賜りました皆さまに深く感謝申し上げますとともに、ご支援をいただきました一般財団法人愛知医科大学愛恵会に心より御礼申し上げます。

第167回日本循環器学会東海地方会

医学教育センター・教授 早稲田 勝久

令和8年6月20日（土）ウインクあいちにおいて、第167回日本循環器学会東海地方会を開催しました。今回は循環器学会本部と協働することで、第1会場の発表のWeb配信やオンライン参加登録を導入し、過去最高となる1,000名を超える先生方に参加登録をしていただきました。

特別講演として、岐阜大学産婦人科の磯部真倫先生に「入局者苦戦の教室からV字回復に学ぶ診療科リクルート」と題してご講演をいただきました。循環器領域も大変な診療科として、昨今若手医師のリクルートに苦戦しています。講演後には多くの先生から質問をいただき、改めて関心の高さを伺えました。また、U40のグループが若手医師・学生を対象としたキャリアパスを考える機会を設け、学生らに

とって将来を考える良い機会になりました。これら特別企画に加え、一般演題に75演題、若手・研修医セッションに23演題の応募がありました。本学の学生も心臓外科で経験した症例を発表しましたが、惜しくもセッションで2位の結果となりました。

今回の地方会では、各大学・施設から若手医師・女性医師を推薦していただき、経験豊かな先生とともに座長を担当していただきました。循環器学会は臨床学会ですが、医学教育という現在の立場も活かし、人材育成や教育について考える機会も提供できたのではないかと考えています。

本地方会の開催に当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援を賜りましたことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

研究創出支援センター規程の一部改正

研究創出支援センター規程の一部が改正され、研究支援部門及び共同実験部門に代わり、URA部門及び共同実験・研究支援部門が設置されました。

施行日は令和8年6月1日

医学部の学科目及び講座に関する規程の一部改正

医学部の学科目及び講座に関する規程の一部が改正され、講座名の見直しが行われました。

施行日は令和8年5月1日

医学研究科の研究指導及び講義等の担当教員に関する規程の一部改正

医学研究科の研究指導及び講義等の担当教員に関する規程の一部が改正され、担当教員に関する取り扱いが見直されました。

施行日は令和8年5月1日

医学部教授会規程の一部改正

医学部教授会規程の一部が改正され、教授会議事録の運用方法について見直しが行われました。

施行日は令和8年7月1日

中央診療部に関する規程の一部改正

中央診療部に関する規程の一部が改正され、総診・内科救急センターについて整備しました。

施行日は令和8年5月1日

総診・内科救急センター規程の制定

総診・内科救急センター規程が制定され、センターの設置目的、業務及び運営に関する事項が定められました。

施行日は令和8年5月1日

総診・内科救急センター運営委員会規程の制定

総診・内科救急センター運営委員会規程が制定され、センターの運営に関する事項を審議する体制が整備されました。

施行日は令和8年5月1日

大学病院看護職員奨学金貸与規程の一部改正

大学病院看護職員奨学金貸与規程の一部が改正され、奨学金の貸与金額の一部変更が行われました。

施行日は令和8年1月1日

医療安全監査委員会規程の一部改正

医療安全監査委員会規程の一部が改正され、医療法施行規則の改正内容に則して、委員会の運営及び監査体制について見直しが行われました。

施行日は令和8年4月1日

メディカルセンター規程の一部改正

メディカルセンター規程の一部が改正され、院長代行に関する条項が追加されました。

施行日は令和8年4月20日

編 集 後 記

☆ 本号の表紙を飾るのは、在学生を起用した本学キービジュアル(宣材広告)です。キービジュアルは、Webサイトや公式SNS等の媒体と連動させて活用することで、大学のブランドイメージの一貫性を高めるものであり、認知度向上やブランド価値の確立を目指し策定されました。「憧れの先へ、一歩ずつ。」。この言葉を胸に、本学は着実に前へ進んで参ります。

なお、キービジュアル撮影の様子は、本学公式Instagramでも紹介しておりますので、是非ご覧ください。

【広報課】

学報の送付を辞退される方は、広報課までご連絡ください。



X



Instagram



YouTube

愛知医科大学公式SNS (@aichi_med_u)
では大学・病院の最新情報を発信中です。

愛知医科大学学報 第183号

発行年月日 令和8年7月31日

発 行 人 学校法人 愛知医科大学

発 行 人 羽生田 正行

編 集 人 長谷川 洋

連 絡 先 〒480-1195

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

学校法人愛知医科大学広報室広報課

☎ (0561) 62-3311 (代表)

☎ (0561) 76-1181 (直通)